

環境省請負事業

知床世界遺産登録 5 周年記念シンポジウム

実施報告書

平成 22 年 7 月

株式会社ヒップ

目次

I 開催概要	1
II 開催内容	6
II アンケート集計結果	20

<参考資料>

(基調講演)

資料 1 「世界遺産 知床・流氷の海からのメッセージ」	37
関 勝則氏 (水中写真家)	

(知床における 5 年間の取組紹介)

資料 2 「知床世界自然遺産地域の管理の枠組みと歩み」	55
則久 雅司氏 (環境省釧路自然環境事務所)	
資料 3 「知床の海の保全と持続的漁業」	58
桜井 泰憲氏 (海域ワーキンググループ座長、北海道大学大学院教授)	
資料 4 「海と川と陸のつながりを復元するー知床におけるダムの改良」	65
中村 太士氏 (河川工作物アドバイザー会議座長、北海道大学大学院教授)	
資料 5 「知床のシカの急増が及ぼす植生への影響と管理」	70
梶 光一氏 (エゾシカ・陸上生態系ワーキンググループ座長、 東京農工大学大学院教授)	

(知床から小笠原へ 世界自然遺産地域の順応的な保全管理)

資料 6 ダムの改良工事	76
資料 7 「知床世界自然遺産地域多利用型統合的海域管理計画」	78
大泰司 紀之氏 (知床世界自然遺産地域科学委員会委員長)	
資料 8 「世界自然遺産推薦地小笠原諸島 海洋島生態系の順応的な保全管理」	80
大河内 勇氏 (独立行政法人森林総合研究所理事)	

資料 9	「順応的管理のサイクル」・・・・・・・・・・・・・ 82 岩槻 邦男氏（世界自然遺産候補地に関する検討会座長）
資料 10	事例報告 屋久島・・・・・・・・・・・・・ 83 矢原 徹一氏（屋久島世界自然遺産地域科学委員会委員長）
資料 11	事例報告 白神山地・・・・・・・・・・・・・ 86 中静 透氏（東北大学大学院教授）
資料 12	事例報告 知床 「持続的な利用と地域振興」・・・・・・・・・・・・・ 88 大泰司 紀之氏（知床世界自然遺産地域科学委員会委員長）
資料 13	知床の利用に係る規制・制限・・・・・・・・・・・・・ 90

I 開催概要

【目的】

2010年7月17日、知床は世界自然遺産登録5周年を迎える。

知床では、登録以前から、科学委員会を設け、統合的な海域管理計画の策定、サケ科魚類の遡上を確保するための河川工作物の改良、深刻な植生被害を及ぼすエゾシカ対策等を科学的・順応的に進めてきており、一昨年2月のIUCN現地調査でも高く評価されている。

今回、知床世界自然遺産地域が、現場で抱える課題と、世界遺産委員会やIUCN等の指摘に対して、どのような対応を行い、高い評価を得るにいたったのかについて、この5年間を振り返り、また、これから5年後の姿を考えるため、知床世界自然遺産地域科学委員会の委員（各WGの座長）等によるシンポジウムを開催した。

【主催】

環境省釧路自然環境事務所

林野庁北海道森林管理局

北海道

世界自然遺産登録5周年・知床旅情誕生50周年記念事業実行委員会

NHK北見放送局（13日のみ）

【開催日時】

平成22年6月12日（土）13:00～17:00

6月13日（日）13:30～16:30

【開催場所】

ランドマークホール（横浜ランドマークプラザ5階）

神奈川県横浜市西区みなとみらい2-2-1

【参加人数】

12日 147名（事前申込98名、当日受付38名、関係者31名）

13日 120名（事前申込104名、当日受付7名、関係者9名）

合計 267名

【パネル展示】

シンポジウム会場ロビーにおいて、知床、白神山地、屋久島、小笠原諸島に関するパネル展示等を行った。

- ・開催日時

平成 22 年 6 月 12 日（土）11:00～18:00

6 月 13 日（日）11:00～18:00

- ・展示内容

保全管理の取組を紹介するパネル展示、大型写真パネル展示、
観光情報などを紹介する展示、大型モニターによる映像展示など

- ・出展機関/団体

環境省 釧路自然環境事務所、東北地方環境事務所、関東地方環境事務所
九州地方環境事務所

林野庁 北海道森林管理局

北海道

世界自然遺産登録 5 周年・知床旅情誕生 50 周年記念事業実行委員会

財団法人知床財団

Overview

【Organizer】

Kushiro Nature Conservation Office, the Ministry of the Environment

Hokkaido Regional Forest Office, Forestry Agency

Hokkaido Government

World Natural Heritage Site 5th Anniversary / Shiretoko Ryojo Song 50th Anniversary

Project Executive Committee

Kitami branch office, Japan Broadcasting Corporation (13th only)

【Dates/Times】

12th June, 2010 (Sat) 13:00 – 17:00

13th June, 2010 (Sun) 13:30 – 16:30

【Location】

Landmark Hall (Yokohama Landmark Plaza 5F)

2-2-1 Minatomirai, Nishi-ku, Yokohama-shi, Kanagawa-ken

【Number of Participants】

12th 147 people (pre-registered: 98, registered on the day: 38, authorized participants: 31)

13th 120 people (pre-registered: 104, registered on the day: 7, authorized participants: 9)

Total: 267 people

【Panel Exhibits】

The panel concerning Shiretoko, Shirakami-Sanchi, Yakushima, and Ogasawara Islands was exhibited in the symposium hall lobby.

- Dates/Times

12th June, 2010 (Sat) 11:00 – 18:00

13th June, 2010 (Sun) 11:00 – 18:00

- Contents

posters detailing conservation management action, large photo panels,

posters presenting tourist information, visual exhibits by large monitors, etc.

- Exhibiting Organizations / Groups

Ministry of Environment

Kushiro Nature Conservation Office, Tohoku Regional Environment Office,

Kanto Regional Environment Office, Kyushu Regional Environment Office

Hokkaido Regional Forest Office, Forestry Agency

Hokkaido Government

World Natural Heritage Site 5th Anniversary / Shiretoko Ryojo Song 50th Anniversary

Project Executive Committee

Shiretoko Foundation

【プログラム】

■6月12日（土）

テーマ：知床世界自然遺産 登録から5年間の歩みと未来

13:00 開会

開会挨拶 田島 一成氏（環境副大臣）

13:10 基調講演 関 勝則氏（水中写真家）

14:00 知床における5年間の取組紹介

「知床世界自然遺産地域の管理の枠組みと歩み」

知床世界自然遺産地域科学委員会事務局

「知床の海の保全と持続的漁業」

桜井 泰憲氏（海域ワーキンググループ座長、北海道大学大学院教授）

「海と川と陸のつながりを復元するー知床におけるダムの改良」

中村 太士氏（河川工作物アドバイザー会議座長、北海道大学大学院教授）

「知床のシカの急増が及ぼす植生への影響と管理」

梶 光一氏（エゾシカ・陸上生態系ワーキンググループ座長、
東京農工大学大学院教授）

15:40 休憩

15:55 パネルディスカッション

「知床世界自然遺産 登録から5年間の歩みと未来」

17:00 閉会

コーディネーター：

大泰司紀之氏（知床世界自然遺産地域科学委員会委員長、北海道大学名誉教授）

パネリスト：

桜井 泰憲氏 （知床世界自然遺産地域科学委員会 海域ワーキンググループ座長、
北海道大学大学院水産科学研究院 教授）

中村 太士氏 （知床世界自然遺産地域科学委員会 河川工作物アドバイザー会議座長、
北海道大学大学院農学研究院 教授）

梶 光一氏 （知床世界自然遺産地域科学委員会 エゾシカ・陸上生態系ワーキンググ
ループ座長、東京農工大学大学院農学研究院 教授）

敷田 麻実氏 （知床世界自然遺産地域科学委員会 適正利用・エコツーリズムワーキン
ググループ座長、北海道大学観光学高等研究センター 教授）

村田 均氏 （斜里町長）

脇 紀美夫氏 （羅臼町長）

■6月13日（日）

テーマ：知床から小笠原へ 世界自然遺産地域の順応的な保全管理

13:30 開会

13:40 パネルディスカッション

第1部：知床から小笠原へ 世界自然遺産の登録に向けて

「知床の5年間・科学委員会の果たした役割と今後の方向性」大泰司 紀之氏

「世界自然遺産推薦地小笠原諸島 海洋島生態系の順応的な保全管理」大河内 勇氏

15:00 休憩

15:10 第2部：世界自然遺産地域の順応的な保全管理

事例報告 屋久島：ヤクシカによる植生への影響と今後の対策 矢原 徹一氏

白神山地：気候変動と長期モニタリング調査 中静 透氏

知床：世界自然遺産地域の持続性利用と地域振興 大泰司 紀之氏

16:30 閉会

コーディネーター：

岩槻 邦男氏（兵庫県立人と自然の博物館館長、東京大学名誉教授）

パネリスト：

大泰司 紀之氏（知床世界自然遺産地域科学委員会委員長、北海道大学名誉教授）

大河内 勇氏（小笠原世界自然遺産候補地地域科学委員会委員長、
独立行政法人森林総合研究所理事）

矢原 徹一氏（屋久島世界自然遺産地域科学委員会委員長、
九州大学大学院理学研究院教授）

中静 透氏（白神山地世界遺産地域科学委員会委員長、
東北大学大学院生命科学研究科 教授）

津元 頼光氏（林野庁森林整備部長）

渡辺 綱男氏（環境省大臣官房審議官（自然環境担当））

司会：

伊藤 雄彦氏（NHK 札幌放送局アナウンサー）

※6月13日のシンポジウムは NHK 北見放送局との共催にて実施し、シンポジウムの開催結果は7月11日に NHK 教育テレビ「テレビフォーラム」にて放送された。

II 開催内容

■6月12日（土） テーマ：知床世界自然遺産 登録から5年間の歩み

◇開催挨拶

田島 一成氏（環境副大臣）

- ・開会に際して、ご挨拶いただきました。

◇基調講演 「世界遺産知床・流氷の海からのメッセージ」

関 勝則氏（水中写真家）

- ・知床の流氷の海から始まり、川を通じて森へとつながる知床の自然について、ご自身の写真を紹介しながら ご講演いただきました。

◇知床における5年間の取組紹介

「知床世界自然遺産地域の管理の枠組みと歩み」

則久 雅司氏（環境省釧路自然環境事務所）

- ・知床の世界自然遺産登録までの取組について発表していただきました。

「知床の海の保全と持続的漁業」

桜井 泰憲氏（海域ワーキンググループ座長、北海道大学大学院教授）

- ・知床の海洋生態系を保全することの重要性について調査結果を交えながらご紹介いただいた他、海洋生態系の保全と安定的な漁業の営みとの両立を図る、多利用型統合的
海域管理計画（＝知床方式）について発表していただきました。

「海と川と陸のつながりを復元する－知床におけるダムの改良」

中村 太士氏（河川工作物アドバイザー会議座長、北海道大学大学院教授）

- ・サケ科魚類の遡上を妨げていた河川工作物について、改良工事实施に至る検討経緯、
工事後の遡上・産卵状況等モニタリング結果などを発表していただきました。

「知床のシカの急増が及ぼす植生への影響と管理」

梶 光一氏（エゾシカ・陸上生態系ワーキンググループ座長、東京農工大学大学院教授）

- ・エゾシカの急増が知床の植生に及ぼしている影響についての調査結果、知床岬で行っているエゾシカ密度操作実験の概要、今後のモニタリング手法などについて発表して
いただきました。

◇パネルディスカッション「知床世界自然遺産 登録から5年間の歩みと未来」

主な議論の内容

- ・世界自然遺産の登録の歩み
- ・世界遺産登録の際のエピソード
 - Ⅰ U C Nからの宿題に対して、地元や科学委員会はどのように対応したのか
- ・この5年間の取組を振り返る
- ・遺産になってからの5年間の取組による成果、残された課題
- ・世界遺産登録の意義
- ・知床自然遺産の未来、知床が目指すもの
 - 中長期的にみて、知床が取り組んでいくべき課題と将来像

パネリスト：

桜井 泰憲氏 （知床世界自然遺産地域科学委員会 海域ワーキンググループ座長、
北海道大学大学院水産科学研究院 教授）

- ・IUCN の現地調査や地元漁業者との調整など、登録当時の状況について発言していただきました。

中村 太士氏 （知床世界自然遺産地域科学委員会 河川工作物アドバイザー会議座長、
北海道大学大学院農学研究院 教授）

- ・河川工作物について、改良にあたってのダムへの調査や現在までの改良成果について発言していただきました。

梶 光一氏 （知床世界自然遺産地域科学委員会 エゾシカ・陸上生態系ワーキンググループ座長、東京農工大学大学院農学研究院 教授）

- ・急増したエゾシカの対策や、新しい狩猟のシステムの必要性について発言していただきました。

敷田 麻実氏 （知床世界自然遺産地域科学委員会 適正利用・エコツーリズムワーキンググループ座長、北海道大学観光学高等研究センター 教授）

- ・新たに発足した「適正利用・エコツーリズムワーキンググループ」の立場から、エコツーリズムの課題と今後目指す知床のブランドマネジメントについて発言していただきました。

村田 均氏 （斜里町長）

- ・100 平方メートル運動や知床博物館などを地元住民の活動を紹介していただき、登録以前より地元の自然に関心を持つようになった住民の変化について発言していただきました。

した。

脇 紀美夫氏 （羅臼町長）

- ・登録時の斜里町と連携しての取組や、登録後 5 年たち、地元に誇りを持つようになった住民の変化などについて発言していただきました。

◇開催挨拶 田島 一成氏（環境副大臣）



◇基調講演

関 勝則氏（水中写真家）



◇知床における5年間の取組紹介

「知床世界自然遺産地域の管理の枠組みと歩み」

則久 雅司氏（環境省釧路自然環境事務所）



「知床の海の保全と持続的漁業」

桜井 泰憲氏（海域ワーキンググループ座長、北海道大学大学院教授）



「海と川と陸のつながりを復元するー知床におけるダムの改良」

中村 太士氏（河川工作物アドバイザー会議座長、北海道大学大学院教授）



「知床のシカの急増が及ぼす植生への影響と管理」

梶 光一氏（エゾシカ・陸上生態系ワーキンググループ座長、東京農工大学大学院教授）



◇パネルディスカッション「知床世界自然遺産 登録から5年間の歩みと未来」

＜コーディネーター＞

知床世界自然遺産地域科学委員会委員長
大泰司紀之氏



＜パネリスト＞

海域ワーキンググループ座長
桜井 泰憲氏



河川工作物アドバイザー会議座長
中村 太士氏



エゾシカ・陸上生態系
ワーキンググループ座長 梶 光一氏



適正利用・エコツーリズム
ワーキンググループ座長 敷田 麻実氏



斜里町長 村田 均氏



羅臼町長 脇 紀美夫氏



パネルディカッションの様子



■6月13日（日）

◇パネルディスカッション「知床から小笠原へ 世界自然遺産地域の順応的な保全管理」

①第一部 知床の5年間を振り返る～科学委員会の重要性～

- ・登録の鍵となった科学委員会
- ・遺産登録後の役割～保全管理～
- ・科学委員会で登録を目指す「小笠原」

②「順応的な保全管理」をいかに行うか

- ・「順応的」とは
- ・「野生動物の食害」～屋久島の事例から～
- ・「気候変動への適応」～白神の事例から～
- ・「持続的な利用」と「地域振興」

コーディネーター

岩槻 邦男氏（兵庫県立人と自然の博物館館長、東京大学名誉教授）

- ・知床の科学委員会の発足の経緯と世界自然遺産登録向けの活動、役割について発言していただきました。
- ・科学委員会を設けて世界自然遺産地域の管理を行うことの意義について発言していただいた。
- ・気候変動の対応について発言していただきました。

パネリスト

大泰司 紀之氏（知床世界自然遺産地域科学委員会委員長、北海道大学名誉教授）

- ・科学委員会発足の意義や目的について説明していただきました。
- ・IUCN から指摘のあった、海域の保護レベルの強化や河川工作物の問題について登録前から登録後にわたり行っている科学委員会の活動について発言していただきました。
- ・シカの捕獲についての国の規制や今後の課題について発言していただきました。
- ・知床のエコツーリズムの課題と対策について発言していただきました。

大河内 勇氏（小笠原諸島世界自然遺産候補地科学委員会、
独立行政法人森林総合研究所理事）

- ・小笠原の概要や課題について説明していただき、外来種の問題と生態系の順応的管理について発言していただきました。
- ・小笠原の行っている順応的管理について、ヤギの対策などを例に説明していただきま

した。

矢原 徹一氏 （屋久島世界自然遺産地域科学委員会委員長、
九州大学大学院理学研究院教授）

- ・「順応的な保全管理」屋久島でのシカの生態系の変化、食害被害の現状の調査結果を紹介いただき、対策について発言していただきました。
- ・利用者の増加による影響や各機関が行っているモニタリング調査の調整など今後の課題について発言していただきました。

中静 透氏 （白神山地世界遺産地域科学委員会委員長、
東北大学大学院生命科学研究科 教授）

- ・白神の科学委員会発足の経緯、問題が起こる前の対策の必要性について発言していただきました。
- ・気候変動への対応について、ブナ林のモニタリング結果を紹介していただいた他、ボランティアの協力など白神の保全管理について発言していただきました。

津元 頼光氏 （林野庁森林整備部長）

- ・屋久島の科学委員会補足の経緯、屋久島の課題について発言していただきました。
- ・小笠原の保全管理における科学委員会との連携について発言していただきました。
- ・保護と利用の課題について、小笠原と屋久島の事例をご紹介していただきました。

渡辺 綱男氏 （環境省大臣官房審議官（自然環境担当））

- ・知床の科学委員会について、発足の経緯や構成員、登録にあたって果たした役割などについて説明していただき、登録にあたって漁業者と行政の調整があったことなどを発表していただきました。
- ・小笠原の世界自然遺産登録に向けての予定、今後の取組について説明していただきました。

◇パネルディスカッション

＜コーディネーター＞

岩槻邦男氏

（世界自然遺産候補地に関する検討会座長）



＜パネリスト＞

知床

知床世界自然遺産地域科学委員会委員長

大泰司 紀之氏（北海道大学名誉教授）



白神山地世界遺産地域科学委員会委員長

中静 透氏（東北大学大学院教授）



屋久島

屋久島世界自然遺産地域科学委員会委員長

矢原 徹一氏（九州大学大学院教授）



小笠原諸島世界自然遺産候補地

科学委員会委員長 大河内 勇氏

（独立行政法人森林総合研究所理事）



津元 頼光氏（林野庁森林整備部長）



渡辺 綱男氏（環境省大臣官房審議官）



<司会>

伊藤 雄彦氏（NHK 札幌放送局アナウンサー）



パネルディスカッションの様子



受付



会場の様子



パネル展 1



パネル展 2



入口横断幕



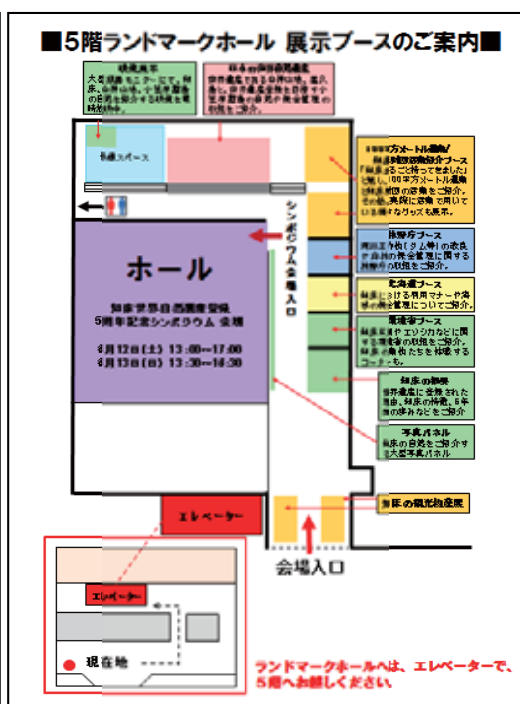
案内看板



◇入口横断幕



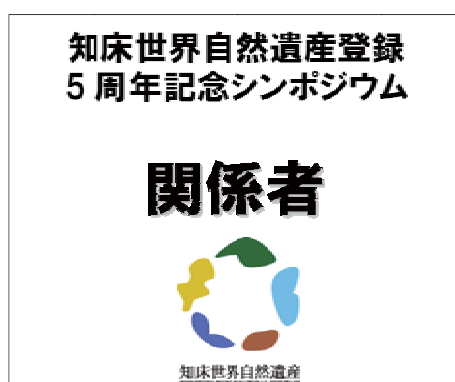
・ 3 階



◇当日配布資料



◇スタッフパス



Ⅲ アンケート集計結果

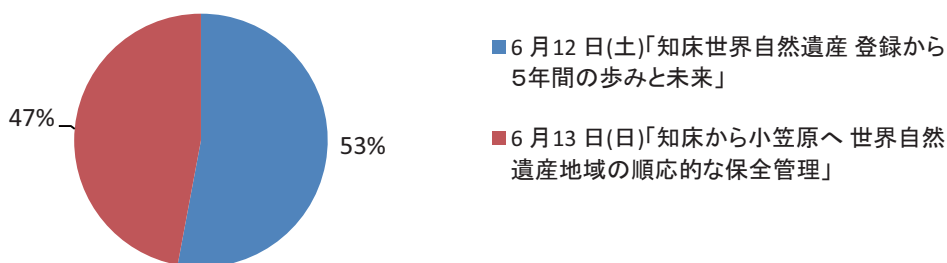
アンケート実施日 2010年7月12日(土)、13日(日) 有効回答数：88件

どちらのシンポジウムに参加されましたか？

6月12日(土)「知床世界自然遺産 登録から5年間の歩みと未来」	54	名
6月13日(日)「知床から小笠原へ 世界自然遺産地域の順応的な保全管理」	48	名
合計	102	名

※複数回答あり

どちらのシンポジウムに参加されましたか？



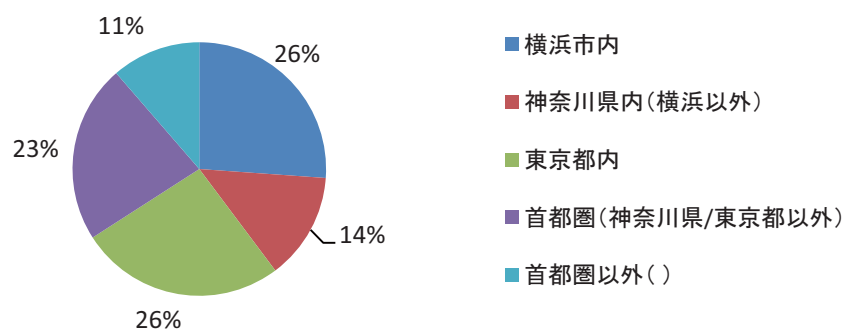
1. 今日はこちらからいらっしゃいましたか？

横浜市内	23	名
神奈川県内(横浜以外)	12	名
東京都内	23	名
首都圏(神奈川県/東京都以外)	20	名
首都圏以外()※	10	名
合計	88	名

※首都圏以外

・北海道	1	名
・秋田	1	名
・山梨	1	名
・京都府	1	名
・長崎県	1	名
・回答なし	5	名

今日はどちらからいらっしゃいましたか？

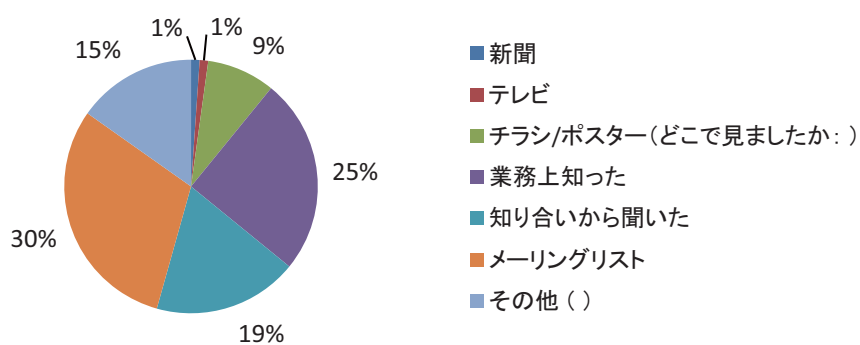


2. このシンポジウムのことは何で知りましたか？

新聞	1	名
テレビ	1	名
チラシ/ポスター(どこで見ましたか：)※1	8	名
業務上知った	23	名
知り合いから聞いた	17	名
メールリングリスト	28	名
その他 ()※2	14	名
合計	92	名

※複数回答あり

このシンポジウムのことは何で知りましたか？



※1 チラシ/ポスター(どこで見ましたか：)

・有楽町北海道物産展	1	名
・横浜市中心図書館	1	名
・調布、神代植物公園	1	名
・職場の回覧	1	名
・日本大学	1	名
・回答なし	3	名

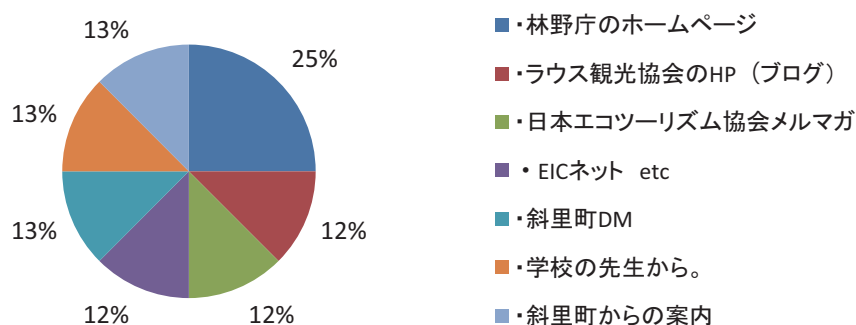
※2 その他

・環境省 HP	2 名
・インターネット	2 名
・林野庁のホームページ	2 名
・ラウス観光協会の HP(ブログ)	1 名
・日本エコツーリズム協会メルマガ	1 名
・EIC ネット etc	1 名
・斜里町 DM	1 名
・学校の先生から。	1 名
・斜里町からの案内	1 名
・回答なし	2 名

3. なぜこのシンポジウムに参加しようと思いましたか？（複数回答可）

「世界自然遺産」というものに興味があったから	44	名
世界自然遺産地域/候補地に興味があったから ※1	53	名
出演者に興味があったから	42	名
「順応的な保安全管理」という言葉や内容に興味があったから	27	名
物産展などが同時開催されているから	5	名
業務上必要だから	23	名
その他（ ） ※2	7	名
合計	201	名

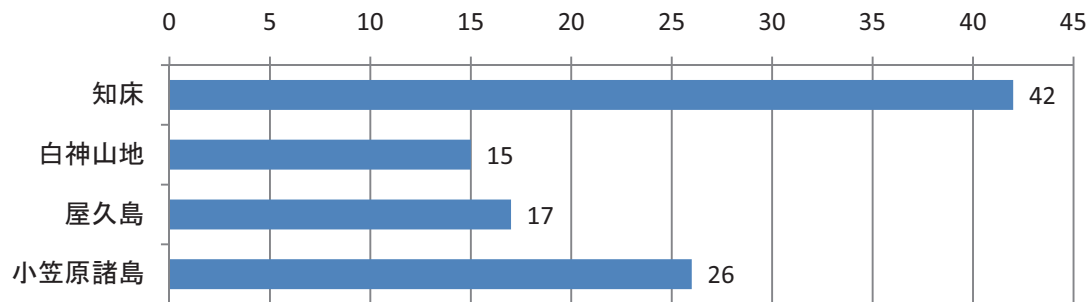
なぜこのシンポジウムに参加しようと思いましたか？



※1 世界自然遺産地域/候補地に興味があったから

知床	42	名
白神山地	15	名
屋久島	17	名
小笠原諸島	26	名
合計	100	名

世界自然遺産地域/候補地に興味があったから



※2 その他

- ・オーバーユースとトイレの問題に関心があるから。
- ・知床 NP の管理に関わったことがあるので。

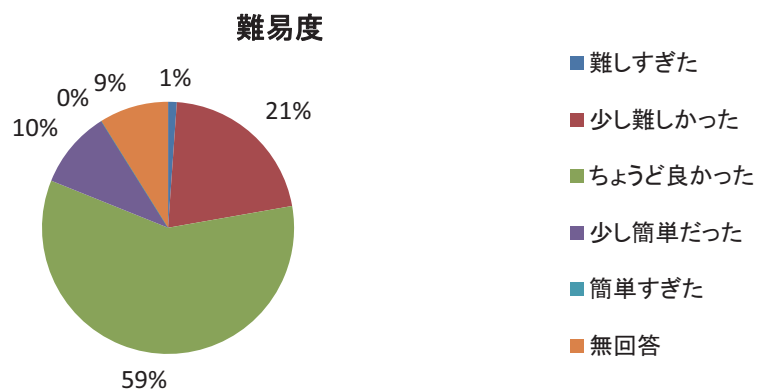
4. 本日のシンポジウムの感想を教えてください。

(1) 内容はいかがでしたか？

難易度

難しすぎた	1	名
少し難しかった	19	名
ちょうど良かった	53	名
少し簡単だった	9	名
簡単すぎた	0	名
無回答	8	名
合計	90	名

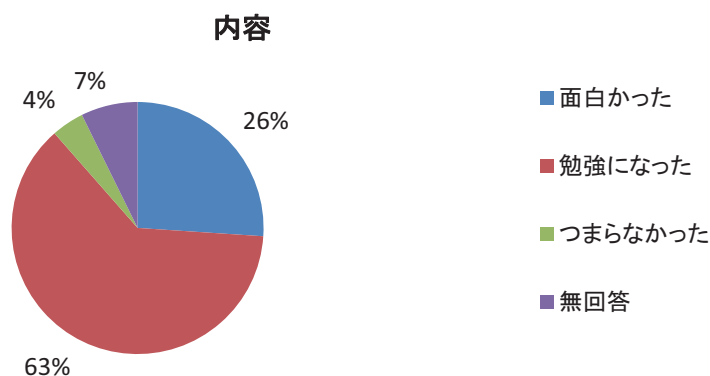
※複数回答あり



内容

面白かった	25	名
勉強になった	60	名
つまらなかった	4	名
無回答	7	名
合計	96	名

※複数回答あり



(2) 今日のシンポジウムの内容で、興味深いと思ったことがあれば教えてください。

- ・シカの食害と環境保全。
- ・エゾシカの急激とその原因。
- ・エゾシカの密度管理と植生被害又は植生回復の話。
- ・梶先生のシカの話。
- ・どの内容も面白いものでしたが、特に梶光一氏のエゾジカの話が印象に残りました。エゾジカがこんなに多く増え、食害を与えているとは知らなかったもので、改めて自分がどれだけ物事を知らないか思い知らされました。
- ・シカについての問題が増えすぎている事が問題であると、初めて知り非常に興味深かったです。数は減らすけど生態は保全するという、難しいテーマですが頑張ってください。
- ・シカ食害の問題。小笠原の外来種対策。観光振興と利用規制の関係。
- ・シカの被害について。
- ・鹿による食害が大きな問題となっていること。
- ・美しい自然、生き物の生態。
- ・基調講演：、水中の魚種の記録。取組紹介の内容に興味がありました。
- ・漁民による自主管理レベルのひき上げが WH 登録につながったこと。
- ・漁業をはじめとする、知床で生活する人々と自然との共生。
- ・漁業者の自主的な海の管理が、世界自然遺産登録につながったということ。地域の人達

の考え方が大事なのだということがわかった。

- ・ 海域の保全。河川工作物の改良の様々な事例。
- ・ 登録にあたって地域の漁民の決断がポイントだったとの話が興味深かった。
- ・ 海域の食物連鎖が写真を使って説明してもらったのがとても分かりやすく、実感できた。
漁業否定しない海域管理計画のとりくみ、河川工作物を全否定しない改良のとりくみ、
世界遺産地域での捕獲も含めたエゾシカ管理のとりくみなど、人間活動を全否定しない
保全のアプローチをしていることが面白かった。
- ・ 漁民との連携や、自主管理の話は興味深かった。もう、少しそのところを詳しく聞きたいところでした。
- ・ 各発表者の方の個人的な思いが伝わってきたこと。漁業者の決断がかぎとなったこと。
- ・ 順応的管理、海洋環境と低次生産。
- ・ 遺産登録までの道のりが大変だったこと、あまり知らなかった。
- ・ 順応的保全における地域生活者のライフスタイル、生活におけるエコ意識、地域自然資源に対するかかわり方。
- ・ 知床が世界遺産登録される過程に多くのドラマがあったことを知り、興味深かった。
- ・ 登録までの経緯と海～陸の生態系の特性に関わるシンポジウムの内容構成が巧みであった。映像がとくに素晴らしく、日本の自然を改めて見直した。自治体の長にパネラーとして発言いただけたのが、ディスカッションを深めることになった。
- ・ 科学委員会の役割。(2件)
- ・ 科学委員会の役割。認定による規制で活性化に疑問。
- ・ 科学委員会が地域の意志決定にとっても大きな影響を与えているということは興味深かった。
- ・ 自然の保全管理における科学者の役割。
- ・ 小笠原の外来種対策。科学委員会の方々の貢献について知ることができた。
- ・ 科学委員会についての話。IUCNの指摘とそれに対する対策。
- ・ 科学委員会委の設立と役割について。
- ・ 指定後の科学委員会の役割がわかった。社会的な問題に対しても科学委員会が係っている。
- ・ IUCNの動き(要請のグレードアップ)と地元関係者の対応。
- ・ CBD、COP10での海洋保護区の議論へのつながり。
- ・ 自然遺産の登録って人の都合によるものだと感じた。
- ・ 小笠原の海洋島の自然(外来種対策)。
- ・ 地域住民との合意形成はその自然の恵みを得て持続されていくとの認識を改めて呼び起こしたのではないかな？自然環境保全にどれだけの努力が払われているのかはもっと広報されるべきと思う。
- ・ 「科学的」という言葉や数値目標が何の疑問もなく一人歩きしていること。シカの管理の

数値を出したのがシカの研究や哺乳類の専門家ではなく、資源管理の専門家であること。

- ・「どの地域でも世界一の生態系がある。それを科学的に説明するために科学委員会的なものが様々な場所にあれば良い」というニュアンスの言葉が印象的だった。日本の多い地域で、科学的に考え、合意を作る場というのは必要であると思う。今後そういった場のコーディネーターの役割も行政に求められるのでは。
- ・世界自然遺産とエコツーリズムの関係。
- ・順応的な保全管理についての説明が分かり易かった。
- ・順応的対応しか方法がないという事。
- ・外来種、気候温暖化、オーバーユース、自主管理、ブリ林が動いている。
- ・同じ世界自然遺産でも取組や課題はそれぞれあることがわかった。その場その場に立脚した知識と経験が必要。
- ・「知床方式」や「小笠原方式」といった自主的な管理や行動計画。
- ・知床：エゾシカ、ダムの改良。小笠原：外来種。
- ・もともと人間の都合で持ちこんだヤギやブタなどを“根絶”と称して殺すことにはかなり抵抗がある（結局遺産登録が最大の目的になってしまっている？）。
- ・日本の研究者が世界の先頭に立って地域に入っていっているという講演。
- ・白神山地での今後生じる可能性のある問題への事前対策検討。ボランティアによるモニタリングの継続。
- ・8人のパネラーは多すぎる。待ちすぎるパネラーの方が気の毒。例えばですが1部の前半で4名パネル、後半で4名パネル、2部で8人で熱く語るという感じがよかったのでは？逆に今回はパネルディスカッションではなく、発表会、ディスカッション部分も聞きたかった。

（3）世界自然遺産の保全管理で、今後こういった点が重要だと思いますか？

- ・国民の意識：特に環境保全に対する自覚。
- ・やはり、人々の認知を増やすことだと思います。参加者を見ると若い人が少なかったので、特に若年層に認知させるのが重要だと思います。
- ・他地域からの来訪者に対する環境保全の意識教育、PR。自然資源に対する人間活動の制限行動の必要性の教育の重要性。
- ・世界自然遺産だからと言って特別な管理をする必要があるのか、基本的には自然遺産であろうが国立公園であろうが普通の里山であろうがあまり違いはないはず。
- ・知床については、エゾシカの食害による森林生態系への影響が大きい。自然遺産として致命的なものとなる恐れがあるので、早急な対策を検討、実施することが重要だと思う。
- ・シカを始めとして、イノシシやサルの害への対策方針。
- ・鹿による食害が大きな問題となっていること。
- ・百名山と同じく観光目的化しているが、その一方で保全のために多大な労力がかかって

いることを広く周知させ、立入り料を取って保全に役立てたらどうか。

- ・自然遺産を利用する人々へ対し、「利用の仕方」を理解していただき、それが将来どんな効果をもたらすのかを周知して欲しい。
- ・生物多様性、生態系を確保してオーバーユースの問題、観光地化を防ぐ。自然遺産＝観光地化ではなく、自然遺産＝持続可能な（オルタナティブ）自然の利用。
- ・利用が保全をひっぱる仕組みづくり（エコツーリズムの進化形）。例、環境税（協力金など）、地域の誇りの醸成など。
- ・人と野生の距離。エコツーリズムの在り方。持続的利用の在り方。
- ・地域振興との調整。エコツーリズムとの関わり。
- ・豊かな自然の保全と産業の持続的両立。
- ・観光利用、特にオーバーユースの問題にどう取り組み、解決を図るかが重要と思います。
- ・梶先生、桜井先生がおっしゃっているような、自然との共生という姿勢が重要だと思います。
- ・人と自然の共生。
- ・人の暮らしと共存できる自然遺産を目指すこと。
- ・地域振興と保全との兼ね合い。
- ・地域振興との両立。
- ・地元の理解、参加、協力。地元、研究者、行政間の相互理解、合意形成。
- ・住民の幸福（誇り）、一体管理⇄ブランド化
- ・地元住民の参画、意識向上。
- ・地元住民（農林漁業者）、NPO との連携、コミュニケーションとモニタリング。
- ・地元の人、訪問者との情報共有。
- ・一番は地元住民と利用者のマナーだと考えてます。人間の力ではどうしようもない事も多いため、今ある自然に感謝し、無理な人の手を加えないことだと思います。
- ・地域や住民とのかかわり、連携が重要であり、常に科学的なデータ（モニタリング）を提示し、順応的な管理をしていくことが必要と思う。
- ・生態系管理の目標設定をどこにおくか、回復の目標をどこにおくかが重要。地元の取り組みや地元の目標が重要。
- ・住民の理解と協力、そしてその意義を分かりやすく伝える努力。
- ・地元と行政の協力関係。行政は地元住民の声を聴き、より多くの情報を公開すべき。
- ・地域の振興との折り合い。シカの個体数管理（猟友会が高齢化する中、効率的な管理方法の検討が必要）。
- ・住民との合意形成。
- ・地域住民の生活との関わりについて、もっと支援する仕組みが必要。保護も利用も地元が中心になって任っていくことが重要だと思います。
- ・地域住民の意識。観光客のマナー。

- 地域との共存。
- 今日の話で世界遺産の何を管理しようとしているのかはよくわからなかった。海の中を管理するのが順応的保全管理と云いたったのでしょうか。ダム改良は魚の話でしょうか。これが順応的保全管理というのでしょうか。エゾシカの個体密度管理が順応的保全管理なのでしょうか。
- 管理の一元化、新たな法整備が必要。シカをへらすにはどうしたらよいか。
- 順応的管理、モニタリング。
- 順応的管理の実践。管理体制と管理方法。
- モニタリングとモニタリングの担い手。鹿の食害対策。ツーリズムと地域住民と自然の持続可能な生態保護の関係性。
- 世界遺産地域だけで解決できない問題提起とその解決。場合によったら遺産地域から波及して全体の話になるようなメカニズムを期待する。
- 世界遺産に限らず、自然公園、森林生態系保護区域での行政の連携体制、NPO、市民の係りによく見えない部分があると感じています。このあたりが理解できると、市民の遺産利用も変わってくるのでは。
- YesNo で決めつけない実現可能な保全手法を科学的に徐々にアプローチすること、科学委員会（社会学的な分野も含めた）の存在、各主体の連携、現場で保全管理に関わる組織の存在、地域住民の理解と協力、そして続けること！！
- もっと保全管理事業に人材が集まり雇用が生まれるような持続的な社会体制を工夫することに力を入れるべき。自然に理解を持った社会学系の人材が少なすぎる。生態系の中に人位置づけるという提言をしているのにシカに関してはシャープシューティングのように、特別ミッションを正当化する科学者は矛盾していると思う。
- 持続的な保全の取組。
- 国レベルでのバックアップ体制が必要。
- 多くの人が見て理解を深めることが大切だと感じました。
- 大変難しい課題があることを学習できた。
- 情報を世界的に公開していくこと。

（４）知床、白神山地、屋久島、小笠原の取組について何かメッセージがあればお願いします。

- 小笠原が自然遺産に認められることを念願している。
- 100、200 年の目線で活動していることのすばらしさに、エールを送ります。私が消滅してからの未来に楽しみを。
- 東京等都心から遠く、関心を持つ人や、支援も少ない中頑張っておられてすごいと思います。私はまだ若く、行動も中々起こせませんが、その内何らかの形で各地の取り組みのお手伝いをしたいと考えています。
- 登録後が大変だと思う。

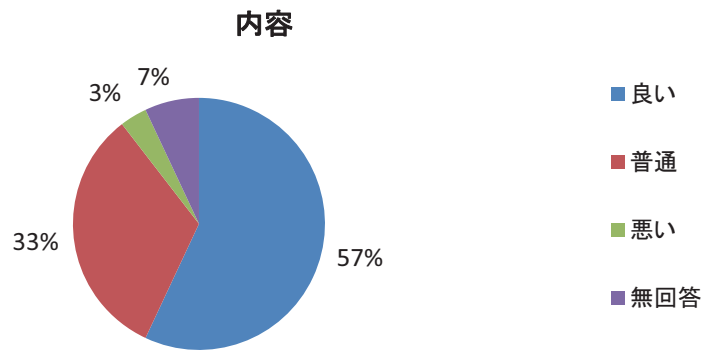
- ・知床方式のような、地域社会全体による協議、合議による管理保全。合議的、永続的、持続可能性を保持する保全管理を日本市民へのけいもう的活動を国、環境省が主体にしてさらに、関係企業による生物多様性保全活動としての取組を日本市民特に未来の主体となる若者に。
- ・豊かな自然の保全と産業の持続的両立に書いたことの実現に向け取り組みを続けること期待したい。
- ・白神山地以外は知床、屋久島、小笠原ともに国立公園である。世界遺産が一人歩きするのではなく日本のこれらの地域は国立公園として保護されてきたことが背景であるから、国立公園管理をもっと大切にしてほしい。シンポジウムからは国立公園という言葉が一回も出なかった。最後のところで知床財団の方から出た。けどこの方はフロアの人だった。斜里町長さんは意識していたのはよかった。
- ・知床に行った際、知床は人類の宝だと感じました。あの美しい自然を子孫に残せるよう応援しています。
- ・地域と各行政と科学者が協力して順応的な管理を今後も続けていってください。知床の世界遺産ブランドづくりに期待してます。
- ・お互いで情報共有し、さらにより方法を見つけていければと思っています。
- ・登録等までに様々な方々の協働や取組があって今があると思います。登録後も、よりよい生態系の保全、管理をしていくことが重要であると思います。
- ・エコツーリズムに力を入れると話しているが、結局観光客からお金をしぼりとることに力を入れようとしていて、本当の意味での自然を守ることや生態系を守ることにはつながらないように感じた。動・植物にとっては人がたくさん来ることの方が迷惑すると思うのだが。
- ・世界遺産をもう少しコマーシャルする必要があると思う。
- ・自然の保全管理で順応的管理をしながら漁業等の人間生活を守って行く姿が大切。
- ・岩槻氏の言われた、どこの自然も唯一、世界一とのメッセージは、この先の日本の生物多様性保全につながっていくものと思う。この 4 地域の取り組みがそのリーダーシップとして進められることを期待する。
- ・シカ問題には捕食機能の強化が必要（シカそのものの生態にも合致している）。狩捕の衰退が確定的なら、古来からのシカの捕食動物であるオオカミの再導入による野生復帰に早急にとりくむべき。2005 年にはすでに外国の研究者が知床で検討すべきと提言していたはずですね？
- ・どの地域も先進的な取り組みなので、多くの人に知ってもらえる場があれば良いと思います。
- ・日本の保全管理の代表選手としてがんばってほしい。政府も継続的に予算をつけてとりくんでほしい。
- ・シンポジウム内でも話されていたが、登録だけで息切れせずこれからが大変だと思いま

す。オーバーユースにどう対応していくか、規制を考えていってください。日本にはまだまだ良い所がたくさんあります。各地の皆さんが連携し、研究し合って広げていってください。

- ・白神では問題が無いという話だったが、サルの農業被害の問題が大きい。サルを観光の目玉にするなど、なんらかの対策を世界遺産の管理の面から動いていくべきだと思う。
- ・知床を指標として取り組んでほしい。また知床は他の地域の範としてやって行くことを望みます。
- ・お話を聞いて実際に行って自分の目で見てみたいととても思いました。
- ・地域住民との調整。観光政策、自然ガイドの取組をどうするか。
- ・「観光地」であるという観念から「残すべき自然を認識するところ」という観念に変化すれば嬉しいのですが。
- ・原生林、自然を守って地元が豊かになる。観光のライフサイクルは短いので安易なツーリズムを考えると将来人は来なくなる。
- ・小笠原は知床方式と違いメチャクチャ難しい点が多いと思う。カエルをなくしてから、豚を減らす等疑問だらけです。応援しますから、うまくやって下さい。
- ・知床、生態系、エゾシカ：ぜひカワウソ、エゾオオカミの復活を！イエローstoneの成功例、植生の回復。屋久島：携帯トイレのPRを！小笠原：ニュージーランドのように外来種の撲滅を！
- ・業務として小笠原に関わっている。よりよい仕組づくりを期待したい。
- ・本当に世界遺産に登録されるべきか検討下さい。
- ・科学者と行政および地元が一体となった保全のモデルができてきたこと。
- ・頑張ってください。

5. 本日のシンポジウムの運営はいかがでしたか？

良い	49	名
普通	28	名
悪い	3	名
無回答	6	名
合計	88	名



<良い>

- ・パネリストに漁業者など関連産業に携わっている人も加えてほしかった。
- ・他の地域の保全管理を考える際に参考になる話がたくさんありました。知床以外の場所で開催する事は大事だと思います。物産展などの展示もいっしょに行ったのは良かったです。最後のパネリディスカッションの進行はバランス良い話が聞けてよかったです。
- ・仕方ないことだとは思いますが、パネリスト等の人で話すのが早い人がいたので理解する前に先に進んでしまうということがありました。
- ・会場の関係者の意見を聞くのはよかったが、やや長すぎて、遂にパネラーの方々の意見を聞く時間、パネラー間のやりとりが少なかった。
- ・休憩時間が1回しかない。出入りが簡単にできない会場だったのであと1回は休憩を入れるべき。
- ・パネルディスカッションに感心しました。寒かったです。
- ・スムーズで良かったと思います。
- ・会場との対話がなかったことが残念。
- ・パネル展示をもっと面白くできたらと思う。
- ・1日目会場室温が低い。司会進行に違和感をもった。
- ・もう少し安いところでも・・・。
- ・会場内での飲食はひかえるべきでは。注意を、カメラのフラッシュ撮影も禁止されているので、もっと徹底を！
- ・若いスタッフが多くて。

<普通>

- ・各演者の発表内容についての資料を配布してほしかった。
- ・パネルディスカッションのテーマを決めたなら、それにふさわしいパネリストを選ぶべき。パネリスト以外からキーステートメントが出るのは構成が悪い。
- ・基調講演の先生、科学委員会の3人の先生の発表が予定時間内にきちんと納まっていたのは感心だった。時間どおりに講演を行われた先生方の準備のよさを感じた。

- ・一部、二部、あまり変化がなくインパクトにかける。もう少し変化をつけて欲しい。動画なども欲しかった。物産展が中途半端、やるならもう少し大規模にした方が良い（物産展はプラザ広場で実施した方がよかった）。専門的なシンポジウムなのに、何故横浜で実施したのか？もう少し小さなホールでもよいのでは？
- ・ランドマークプラザで、このシンポジウムの開催案内を行えば、もっと多くの人々に世界自然遺産を PR できたのではないか。
- ・シンポジウムの場所がわかりにくかった。案内など、遠方から来る人への配慮が不足していなかったか。エアコンが寒く、講演に集中できず残念。環境省のシンポジウムなのに、どうかと思った。エコでないですね。
- ・横浜ランドマークを知らないものにとっては、場所（ホール）がわかりにくかったです。首都圏から来る者としては、都内で開催していただいた方が行きやすいです。シンポの進行はよかったと思います。

<悪い>

- ・2日目パネルディスカッション第一部、コーディネーター岩槻氏とあったが、ほとんどを司会進行の NHK アナウンサーが仕切っていた。司会進行だけして、コーディネーターの方にまかせるべきではなかったか。司会者がしゃべりすぎ。テレビ放映では編集しないでありのまましてほしい。
- ・なぜ会場が横浜なのか？アピールをどこに向けてやりたいのかがあいまいな会のため、一般の人が来場しない→物産の販売がふるわないし、世界遺産のアピールにもないらしい。シンポを開催という目的のみのように感じられた。
- ・冒頭に NHK の番宣があり、近頃不詳のテレビでの番組 PR 同様、NHK のなりふり構わない知的貧困を感じた。進行もシナリオに寄りすぎてダイナミズムに欠け、放映を想定したまとまりのよさに終始した印象だった。

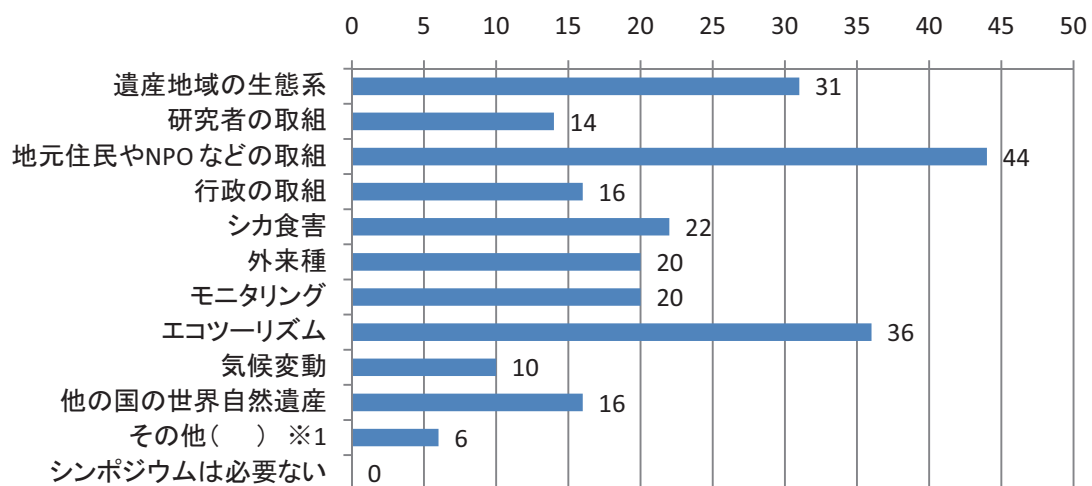
<無回答>

- ・パネラーが学者（科学委員会）と行政（町長）だけで、非常に不満です。いわゆる一般人の（生活者）の意見が必要ではないか。会場からの発言者も関係者ばかりであまりの内輪の議論に終始した感が強い。

6. もし次に世界自然遺産についてのシンポジウムを行うとしたら、こういったテーマがよいと思いますか？（複数回答可）

遺産地域の生態系	31	名
研究者の取組	15	名
地元住民や NPO などの取組	43	名
行政の取組	16	名
シカ食害	23	名
外来種	20	名
モニタリング	20	名
エコツーリズム	35	名
気候変動	10	名
他の国の世界自然遺産	17	名
その他（ ） ※1	6	名
シンポジウムは必要ない	0	名
合計	236	名

もし次に世界自然遺産についてのシンポジウムを行うとしたら、
こういったテーマがよいと思いますか？



※1 その他

- ・この3つ（研究者の取組、地元住民や NPO などの取組、行政の取組）の取組とその関係について。それぞれの意見、相互協力体制について。
- ・人と自然遺産との関係性、つながりをテーマとしていただきたい。
- ・観光開発と WH

【参加者アンケート (表)】

知床世界自然遺産5周年記念シンポジウム

参加者アンケート

本日は、シンポジウムにご参加いただき、ありがとうございました。

世界自然遺産の保安全管理や、世界自然遺産に関する普及啓発にあたり参考としたいので、アンケートへのご協力をお願いいたします。

※あてはまるものにチェック ☒ をしてください。

どちらのシンポジウムに参加されましたか？

- ☐ 6月12日(土)「知床世界自然遺産 登録から5年間の歩みと未来」
☐ 6月13日(日)「知床から小笠原へ 世界自然遺産地域の順応的な保安全管理」

1. 今日はこちらからいらっしゃいましたか？

- ☐ 横浜市内 ☐ 神奈川県内(横浜以外) ☐ 東京都内
☐ 首都圏(神奈川県/東京都以外) ☐ 首都圏以外()

2. このシンポジウムのことは何で知りましたか？

- ☐ 新聞 ☐ テレビ
☐ チラシ/ポスター(どこで見ましたか：)
☐ 業務上知った ☐ 知り合いから聞いた ☐ メーリングリスト
☐ その他 ()

3. なぜこのシンポジウムに参加しようと思いましたか？ (複数回答可)

- ☐ 「世界自然遺産」というものに興味があったから
☐ 世界自然遺産地域/候補地
(☐ 知床 ☐ 白神山地 ☐ 屋久島 ☐ 小笠原諸島) に興味があったから
☐ 出演者に興味があったから
☐ 「順応的な保安全管理」という言葉や内容に興味があったから
☐ 物産展などが同時開催されているから
☐ 業務上必要だから
☐ その他 ()

4. 本日のシンポジウムの感想を教えてください。

(1) 内容はいかがでしたか？

- 難易度：☐ 難しすぎた ☐ 少し難しかった ☐ ちょうど良かった
☐ 少し簡単だった ☐ 簡単すぎた
内容：☐ 面白かった ☐ 勉強になった ☐ つまらなかった

裏面へ続く

【参加者アンケート (裏)】

(2) 今日のシンポジウムの内容で、興味深いと思ったことがあれば教えてください。

[]

(3) 世界自然遺産の保全管理で、今後どういった点が重要だと思いますか？

[]

(4) 知床、白神山地、屋久島、小笠原の取組について何かメッセージがあればお願いします。

[]

5. 本日のシンポジウムの運営はいかがでしたか？

☐ 良い ☐ 普通 ☐ 悪い

[]

6. もし次に世界自然遺産についてのシンポジウムを行うとしたら、どういったテーマがよいと思いますか？ (複数回答可)

- ☐ 遺産地域の生態系
☐ 研究者の取組 ☐ 地元住民や NPO などの取組 ☐ 行政の取組
☐ シカ食害 ☐ 外来種 ☐ モニタリング ☐ エコツーリズム
☐ 気候変動 ☐ 他の国の世界自然遺産
☐ その他 ()
☐ シンポジウムは必要ない

アンケートは以上です。お忙しいところご協力ありがとうございました。

アンケート用紙は、ホール出口の回収ボックスにて回収しております。

また、ホールのロビーではパネル展、物産展などを開催中です。ぜひお立ち寄りください。



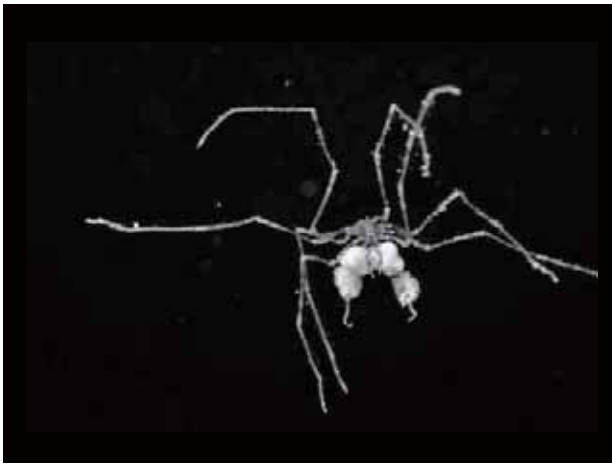
知床世界自然遺産
SHIRATORI WORLD NATURAL HERITAGE

〈参考資料〉









スケトウダラ



マダラ



リボンシール







ガンコ



アパチャン



ボウズイカ



テカギイカ



ニュードウイカ



ラウスコンブ



ホテイウオ



エゾバフンウニ



ホッカイエビ



ナメダンゴ

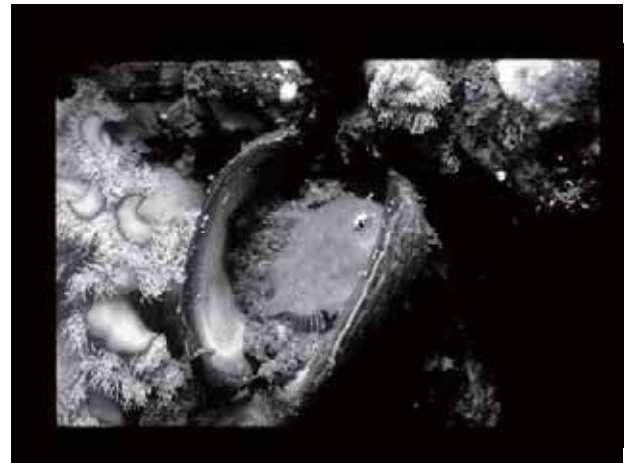


ラウスカジカ



スナガレイ



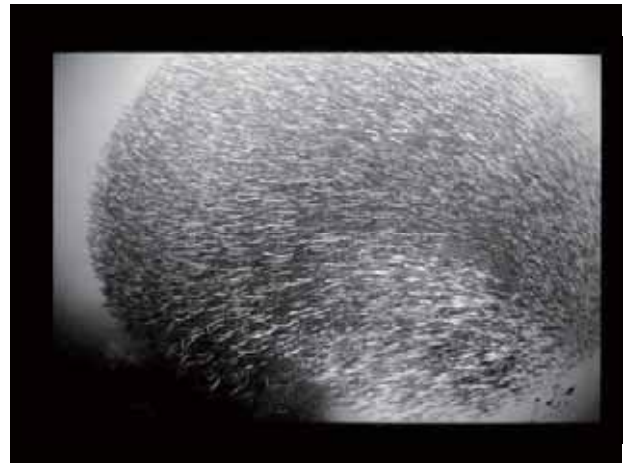


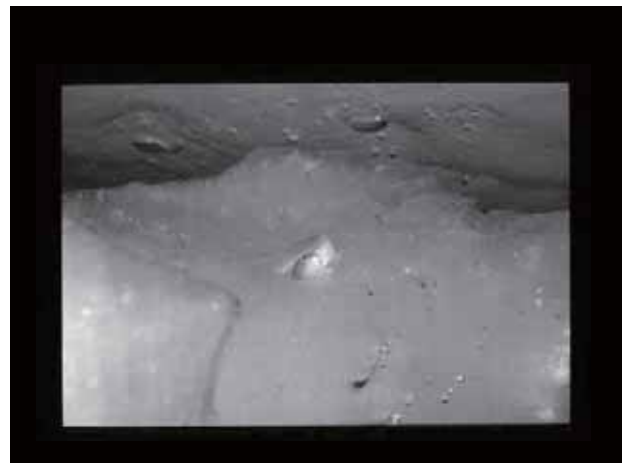














知床世界自然遺産の管理の枠組みと歩み

環境省釧路自然環境事務所
統括自然保護企画官 則久雅司

知床世界自然遺産 地域の概況

- 登録 2005年7月17日
- 所在地
北海道斜里町、羅臼町
- 面積 約71,100ha
陸域約48,700ha
海域約22,400ha



世界自然遺産の登録基準(クライテリア)

- | | |
|----------|------------------------|
| 7 自然景観 | ひととき優れた自然美 |
| 8 地形・地質 | 過去の生命の歴史や地球の歴史の証拠 |
| 9 生態系 | 進行中の生物進化や生物群集の見本 |
| 10 生物多様性 | 絶滅危惧種、生物多様性保全上最も重要な生息地 |

◎登録遺産に類似のものがいないこと

◎法的保護措置があること

<UNESCO世界遺産委員会による厳格な審査>



知床世界自然遺産の資質

生態系

北半球で最も低緯度に位置する季節海水域であり、季節海水の形成による影響を大きく受け、特異な生態系の生産性が見られるとともに、海洋生態系と陸上生態系の相互関係の顕著な見本である。



知床世界自然遺産の資質

生物多様性

遺産地域は海洋性及び陸上性の多くの種にとって特に重要であり、これらの中にはシマフクロウ、シレットコスシなど多くの希少種を含んでいる。遺産地域は多くのサケ科魚類にとって世界的に重要であるとともに、トドや多くの鯨類を含む海棲哺乳類にとっても世界的に重要である。遺産地域は世界的に希少な海鳥類の生息地として重要であるとともに、渡り鳥類にとって世界的に重要な地域である。



知床世界自然遺産の歩み(登録まで)

- 1993年 屋久島、白神山地の世界遺産登録
- 1999年 斜里・羅臼両町長が国・道に遺産登録を要請
- 2003年 5月 世界自然遺産候補地検討会が3候補地選定
10月 知床の推薦内定
知床世界自然遺産候補地地域連絡会議設置
- 2004年 1月 知床世界自然遺産候補地管理計画を決定
政府が知床を世界遺産委員会へ推薦
7月 審査機関(IUCN)の現地調査
知床世界自然遺産候補地科学委員会を設置
11月 質問に対する政府回答
- 2005年 3月 2回目の政府回答
7月14日 世界自然遺産登録決定(南ア・ダーバン)
7月17日 リスト掲載(登録日)

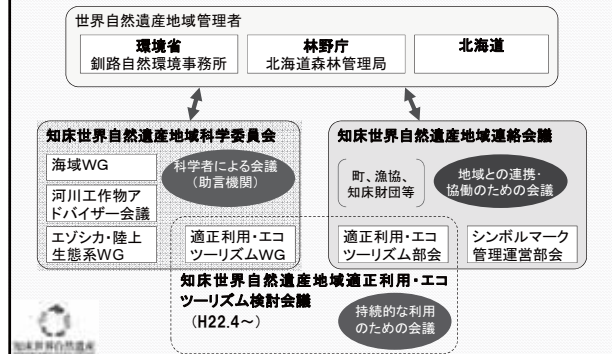


知床世界自然遺産の歩み(登録から今日まで)

- 2005年 国立公園海域を沿岸1kmから3kmに拡張
- 2006年 河川工作物(ダム等)の改良工事着手
「知床半島エゾシカ保護管理計画」策定
- 2007年 「多利用型統合的・海域管理計画」策定
- 2008年 2月 ユネスコ世界遺産センター及びIUCN現地視察
7月 第32回世界遺産委員会
知床の保全状況の評価が行われる。
- 2009年 4月 知床世界自然遺産シンボルマーク選定
知床世界遺産センター開館
12月 「知床世界自然遺産地域管理計画」策定
- 2010年 4月 科学委員会と地域連絡会議を改組
知床世界自然遺産地域適正利用・エコツーリズム
検討会議発足



管理体制



各ワーキンググループの活動

知床世界自然遺産地域科学委員会(大森司紀之委員長)

- 海域ワーキンググループ(桜井泰憲座長)
「知床の海の保全と持続的漁業」
- 河川工作物アドバイザー会議(中村太士座長)
「海と川と陸のつながりを復元する ― 知床におけるダムの改良」
- エゾシカ・陸上生態系ワーキンググループ(梶光一座長)
「知床のシカの急増が及ぼす植生への影響と管理」
- 適正利用・エコツーリズムワーキンググループ(敷田麻実座長)
＜平成22年度より発足。6月22日 第1回検討会議開催予定＞



適正利用・エコツーリズムの取組事例

～知床五湖の事例～

○ヒグマの出没

- ・不特定多数の利用者との不意な遭遇の防止
→歩道の閉鎖 → 利用機会の減少

- ・食べ歩き、餌付け等の懸念

○利用集中による植生の荒廃

- 静寂な利用環境の喪失



キャッチフレーズ:

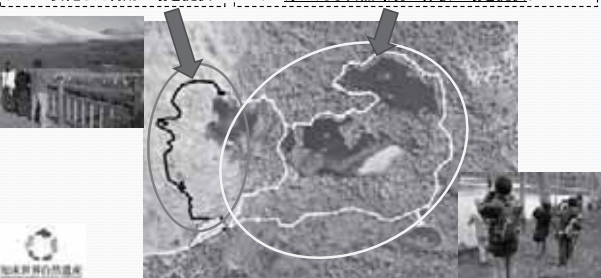
野生を育む、知床五湖。共生へ、新しい ふたつの歩き方。

高架式木道

電気柵で守られた高架式木道を整備し、不特定多数の利用者の安全で安定した利用の場を提供

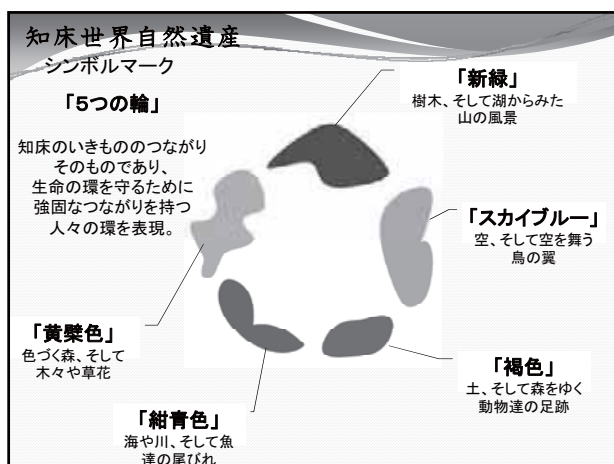
地上歩道(利用調整地区導入)

不特定多数の利用者が利用することによる植生の荒廃やヒグマとの不適切な遭遇を防止し、静寂な雰囲気の中で原生的な自然環境の体験の場を提供。

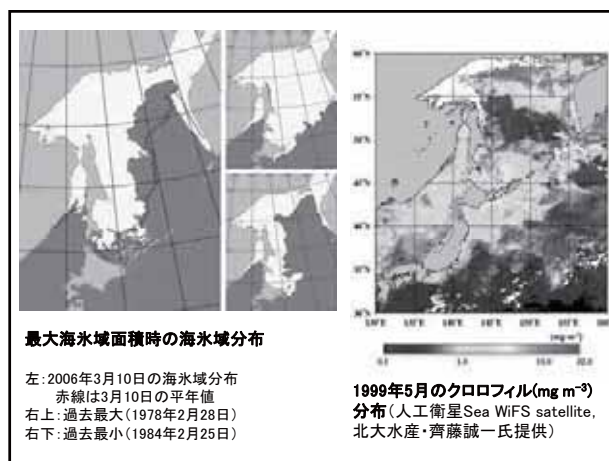
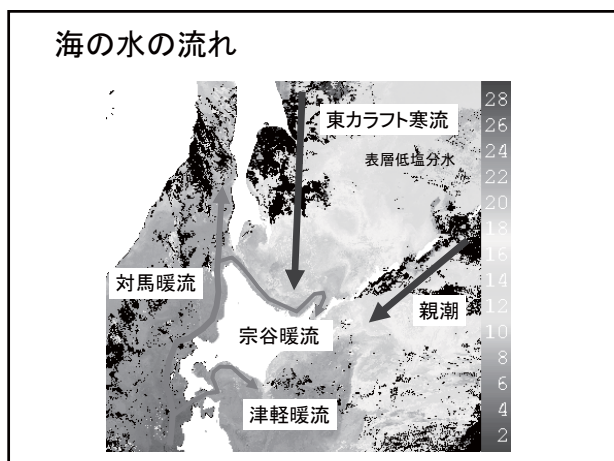
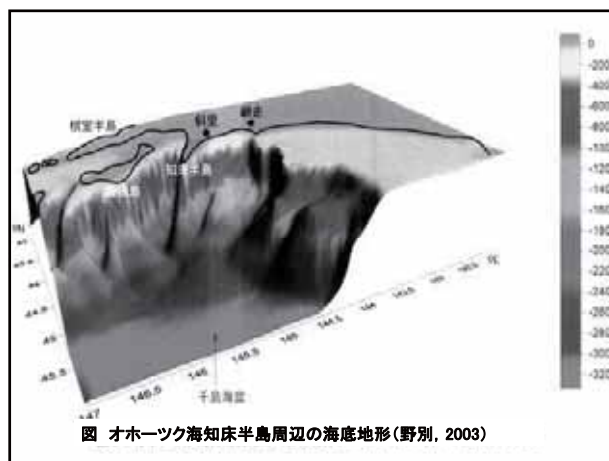
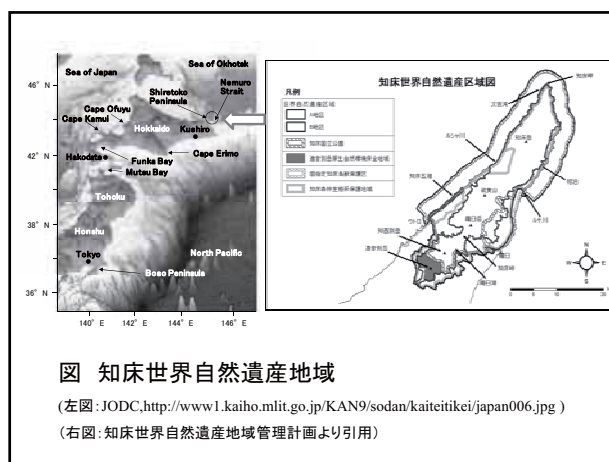


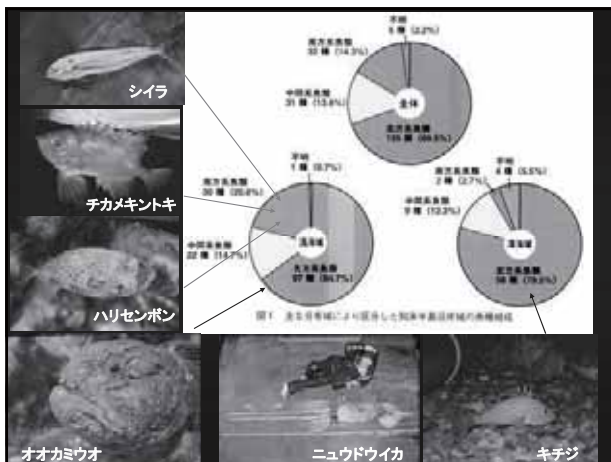
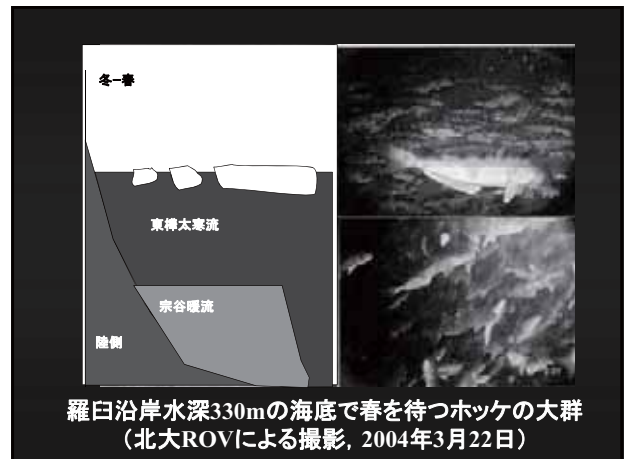
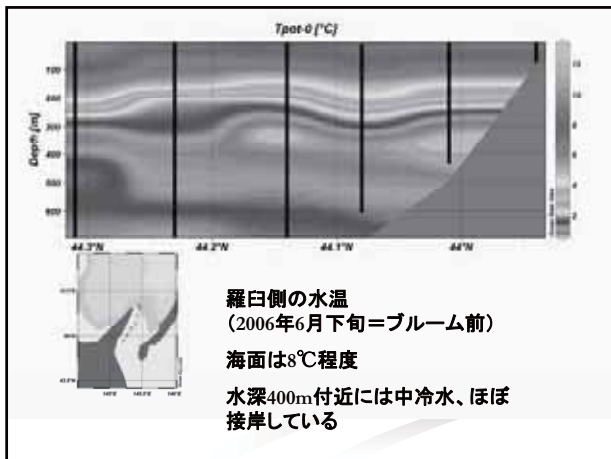
遺産地域の自然価値の保護、観光客の自然に基づく良質な体験の促進、地域経済の発展の促進を基本とする「統合的なエコツーリズム戦略」の早急なる策定(保全状況調査報告書 IUCN 2008.5)





資料3





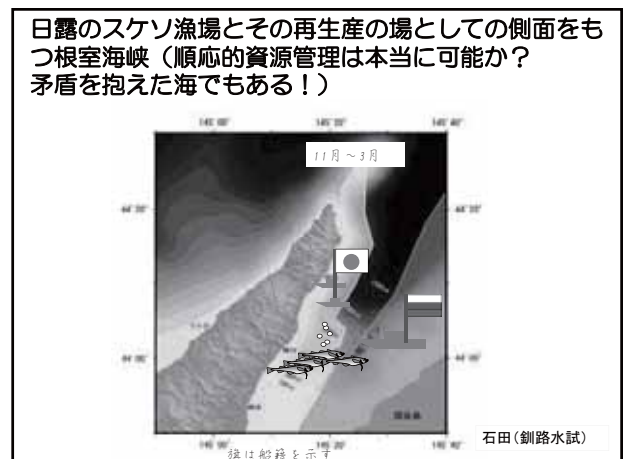
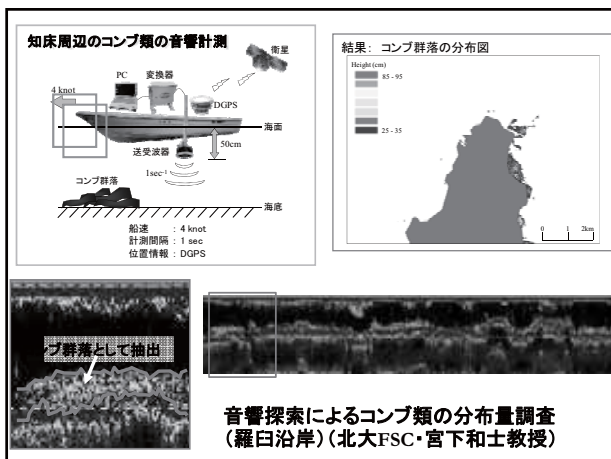
知床の海の豊かさは、漁獲物だけではない！

中川・野別 (2003)
知床半島および沿岸域で
確認された魚類リスト
29目79種255種
うち漁獲されているのは70種

海に生息する魚類、海藻類、無脊椎動物など
生き物の多様性を調査中 (矢部ほか)

2006年漁獲ファイル① タウエガジ科

ゴマギンボウの1種 *Seichomys* sp. 体長124cm
未記載種 (おそらく新種)
日本初 (樺太、景観島)



多利用型統合的・海域管理計画の概要

(ユネスコ世界自然センター・IUCNに提出)

(2008年2月20日羅臼・現地説明)

環境省・北海道

ここでは、一部を抜粋して紹介

計画の目的

- 海洋生態系の保全と持続的な水産資源利用による安定的な漁業の営みの両立

海洋環境・海洋生態系の保全

両立

安定的な漁業の営み



保護管理の基本的考え方

(1) 基本方針

- 海洋環境や海洋生態系の保全及び漁業に関する法規制、並びに海洋レクリエーションに関する自主的ルール及び漁業に関する漁業者の自主的管理を基調
- 海洋生態系の保全の措置、主要な水産資源の維持の方策及びそれらのモニタリング手法並びに海洋レクリエーションのあり方を明らかにし、適切な管理を推進

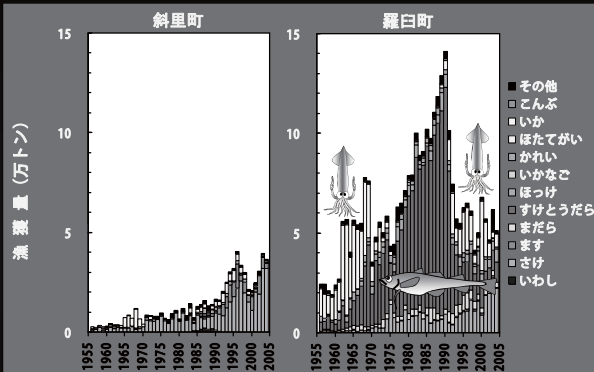
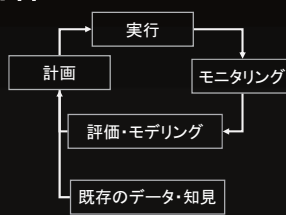
知床生態系の順応的管理

※生態系は

- 非常に複雑で不確実性が高い
- 絶えず変動する非定常
- 境界がはっきりしない解放系

順応的管理

- 生態系の構造と機能を維持できる範囲内で自然資源の管理や利用を行うために、変化の予測やモニタリングを実施し、管理や利用方法の柔軟な見直しを行う管理手法
- 持続的な水産資源の利用による安定的な漁業を維持するため、スケトウダラではTAC制度に基づく漁獲量の制限等、シロザケ、カラフトマスでは人工ふ化放流事業における計画的な種苗の放流など、既に順応的な管理を実施



斜里町と羅臼町における魚種別漁獲量の推移

石田 (斜路水産 作成)

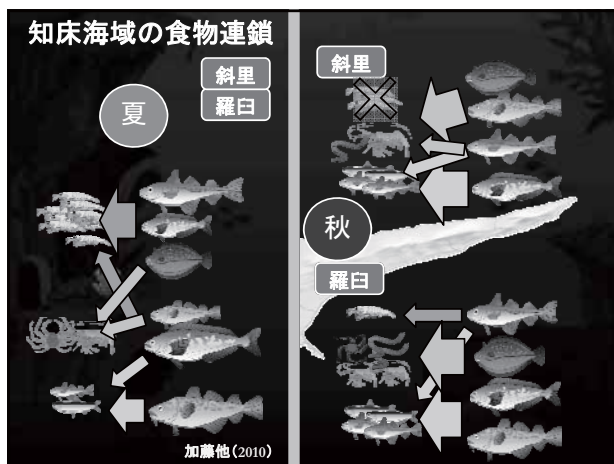
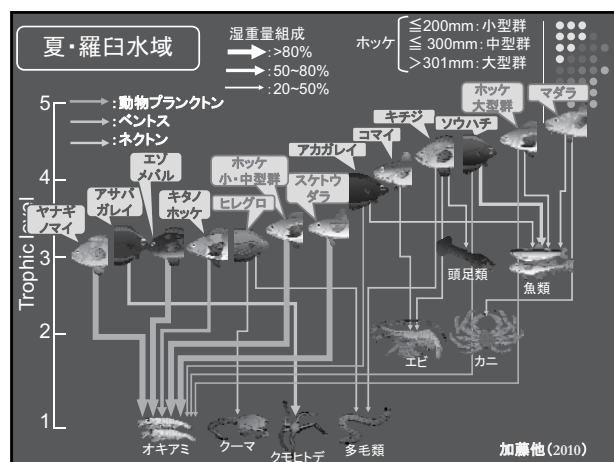
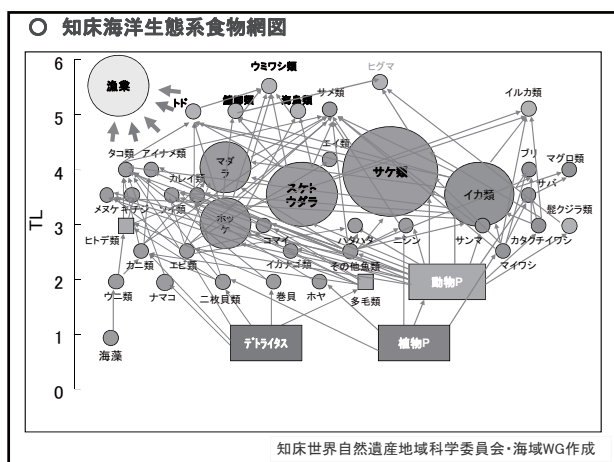
(3) 各種構成要素の保護管理等の考え方

■知床の海洋生態系を6つの構成要素に分類し、それぞれの構成要素毎に現状、課題、保護管理等の考え方を記述

■魚介類、海棲哺乳類、海鳥・海ワシ類について知床の海洋生態系を特徴付けるものを指標種として選定

【知床海洋生態系の構成要素と指標種】

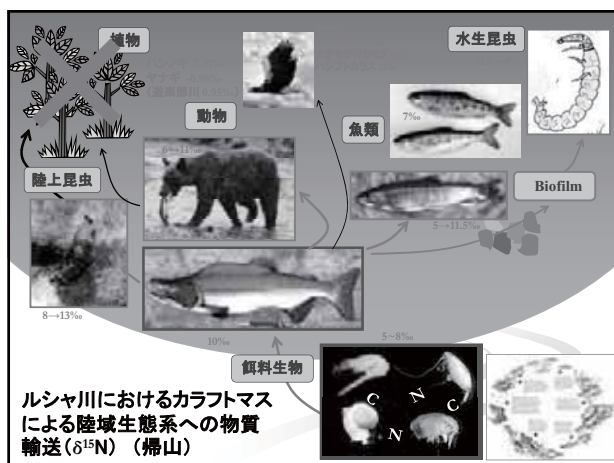
- ・海洋環境と低次生産
- ・沿岸環境
- ・魚介類：シロザケ、カラフトマス、サクラマス、スケトウダラ
- ・海棲哺乳類：トド、アザラシ類
- ・海鳥・海ワシ類：ケイマフリ、オオセグロカモメ、ウミウ、オオワシ、オジロワシ
- ・その他：海洋レクリエーション



(3) 指標種

① サケ類

- 自然産卵の遡上を確認し、河川工物物による遡上障害を実行可能な範囲で回避
- 漁業法等に基づく採捕の禁止措置や人工ふ化放流事業などにより、適切な資源の管理と持続的な利用を推進
- 回遊・遡上産卵に関する生物モニタリングや集中調査の実施



② スケトウダラ

- 海洋生物資源の保存及び管理に関する法律に基づく採捕量の上限の設定
- 漁業団体が締結している資源管理協定による未成年魚の保護措置
- 地元漁業者による産卵親魚を保護するための操業の自粛期間や区域の設定、刺し網の網目制限などの自主的な管理を実施
- 各種会議や研究者間のネットワークを通じたロシアの資源管理等に関する情報収集



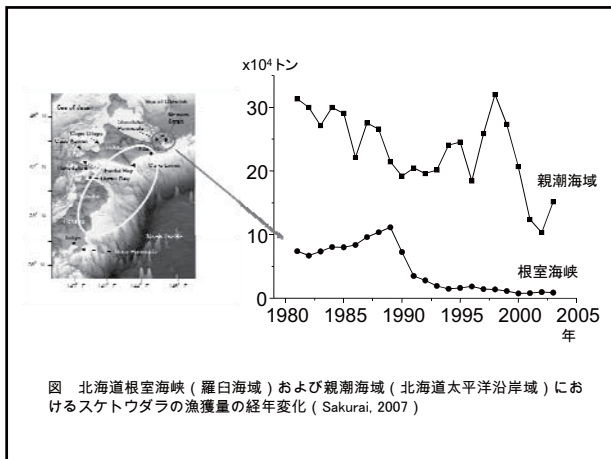
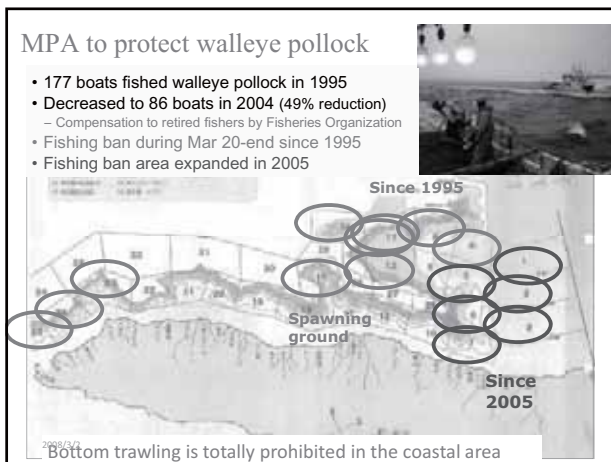
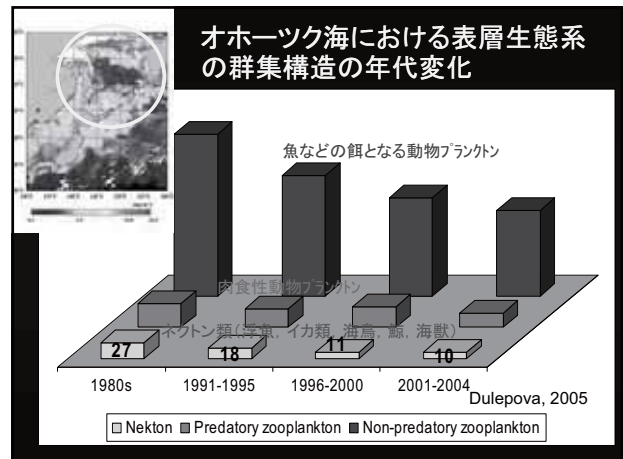
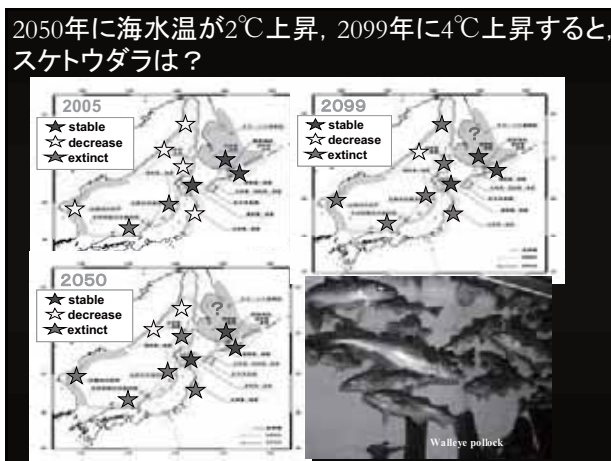
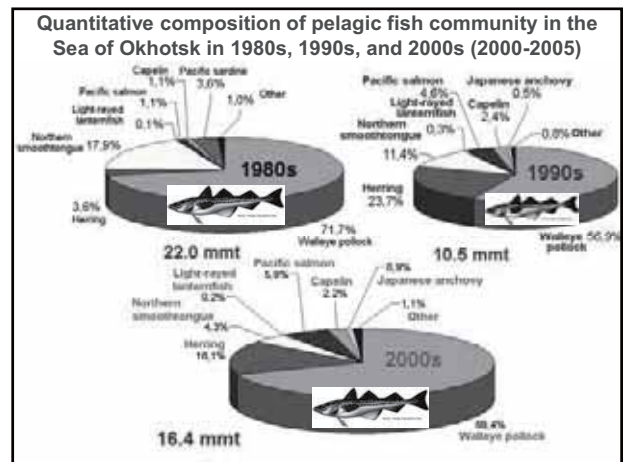


図 北海道根室海峡 (羅臼海域) および親潮海域 (北海道太平洋沿岸域) におけるスケトウダラの漁獲量の経年変化 (Sakurai, 2007)

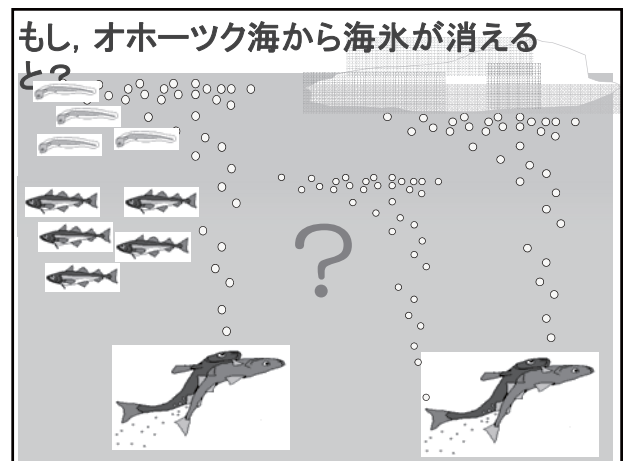


MPA to protect walleye pollock

- 177 boats fished walleye pollock in 1995
- Decreased to 86 boats in 2004 (49% reduction)
 - Compensation to retired fishers by Fisheries Organization
- Fishing ban during Mar 20-end since 1995
- Fishing ban area expanded in 2005



2050年に海水温が 2°C 上昇, 2099年に 4°C 上昇すると、スケトウダラは？



③ トド

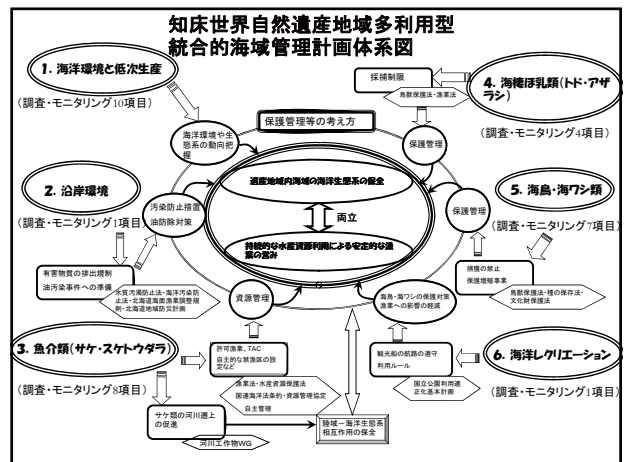
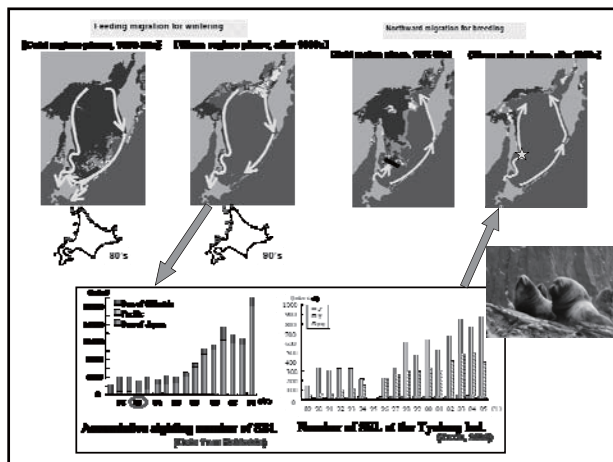
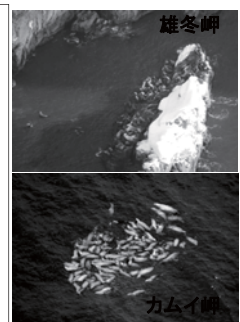
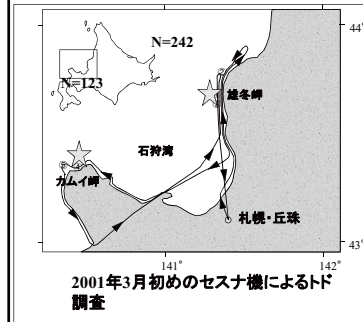
- 漁業法に基づき、採捕数の制限のもとで管理し来遊状況や漁業被害の状況を踏まえてトドの管理を実施
- 採捕数については、北海道沿岸への来遊頭数のデータに基づき算出し、また、トドの生態、来遊頭数などの調査・研究や漁業被害状況を把握

④ アザラシ類

- 生息実態等の長期的なモニタリングや漁業被害調査を実施するとともに、鳥獣保護法に基づく捕獲許可制度の適切な運用を図り、その保護管理を推進



北海道日本海沿岸でトドの漁業被害が1990年代から急増！



知床世界自然遺産地域科学委員会(2010年2月16日、札幌、環境省釧路自然環境事務所提供)

IUCN、ユネスコ世界自然遺産委員会による現地ヒアリングと視察風景(羅臼漁協)(2008年2月20日)(環境省釧路自然環境事務所提供)

知床方式とは？

知床世界自然遺産海域 多利用型統合的・統一的な海域管理計画

知床政界自然遺産地域での海域管理が国際的になぜ認知されたか

- ・ 沿岸漁業者、漁業組合、地域行政、観光を含む民間団体、北海道、国(環境省)、これに研究者など利害関係の異なるステークホルダーによる科学委員会が機能

計画の目的

- 海洋生態系の保全と持続可能な水産資源利用による安定的な漁業の営みの両立

知床海域・海洋生態系の保全

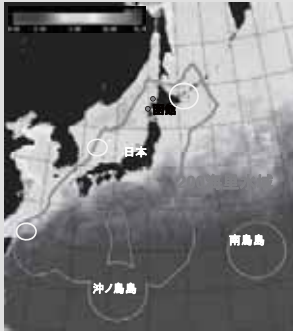
- ・ 知床海域・海洋生態系の保全



- ・ 「知床方式」と呼ぶ海域保全の手法は、従来の縦割り行政の弊害を取り除くこと、地域住民、漁業者の自主的取り組み(水産物のブランド化、自主管理型スケジューリングなど)を促進



日本は海の国 (知床からの発信)

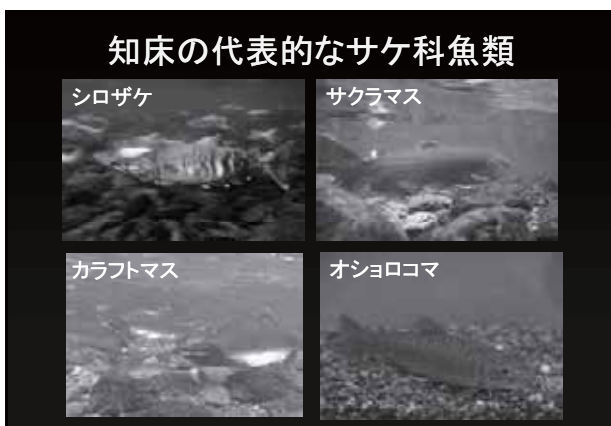
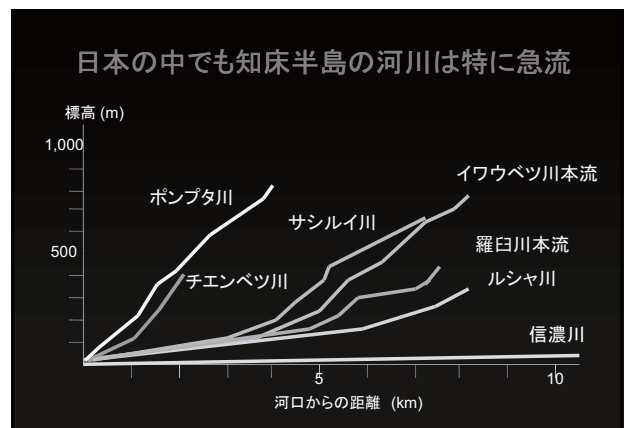
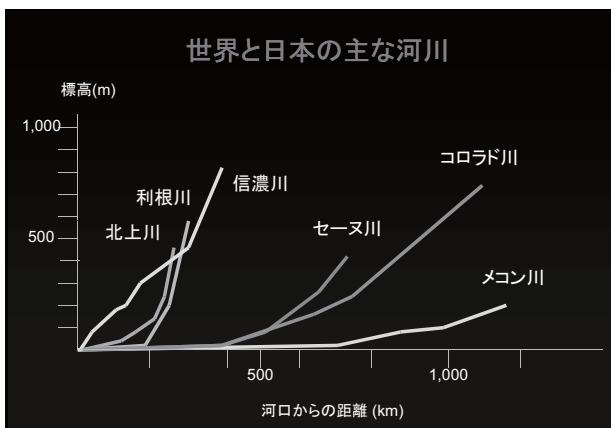
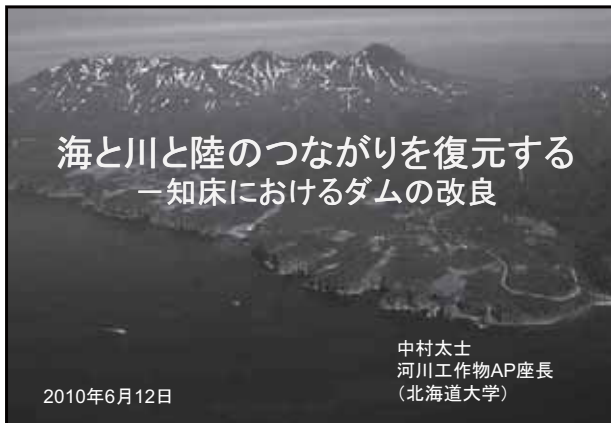


- 世界6番目の200海里水域
- 漁獲量 450万トン(2004年)
- 水産物は動物タンパク質の40%を支える(世界1位)
- 水産物の自給率55%(2004年)
- この広大な海からの恵みを, 大切に!

ご清聴有難うございます



Photo by Haruuna Ueki, Off Rausu





土石流等の災害からの保全対象 (家屋や道路など)



羅臼川下流域に広がる
羅臼の町



イワウベツ川下流の橋梁

突発的に発生する災害



イワウベツ川で発生した土石流による被害状況(1981年8月)

河川工作物の定義

河川内に設置された
すべての横断構造物



治山ダム



ボックスカルバート



水路

検討の経緯

2005年7月 河川工作物ワーキンググループ(WG)設置
(2008年1月まで12回開催)

環境影響評価手法の検討

14河川、100基の河川工作物の影響評価を実施
遺産登録以前から改良の予定のあった18基について技術的助言

13基の河川工作物について「改良の検討を行うことが適当」と評価

改良工法の検討を実施
順次改良を実施

影響評価と改良方法

河川工作物を改良することにより、サケ科魚類の生息環境
などの改善が期待されるか否かを以下の順に判断

1. 河川工作物以外の遡上・生息阻害要因(自然滝、酸性河川等)
2. 河川工作物自体による遡上阻害要因
3. 河川工作物上流の産卵・生息環境

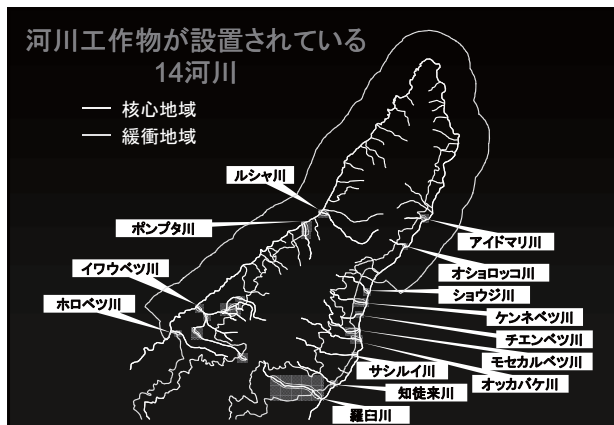
上記フローで改善が期待されるとされたものについて、下記各項目への
影響を総合的に判断

流出可能土砂量
の状況

下流域の保全対象の状況

河川周辺の生態系の状況

改良工法の検討



河川工作物の影響評価結果

A. 52 基

下記の理由により改良を加える必要がない、若しくは改良しても生息環境の改善が見込めないもの

- ◆ 遡上不可能な自然の滝が下流に存在する
- ◆ 下流が酸性の環境下にある
- ◆ 河川工作物の落差が低く、十分遡上できる
- ◆ 上流に産卵・生息環境がない

⇒ 現状維持

B. 35 基

改良すればサケ科魚類の生息環境等の改善が図られる可能性があるものの、改良に伴う防災機能等への影響が大きいもの

⇒ 将来的には改良の可能性があるものの、当面現状維持

C. 13 基(及び羅臼川の18基)

⇒ 優先的に改良することが適当

「現状維持」と評価された 河川工作物の事例 (1)



上流部に巨石が堆積しており、流下する可能性がある。

「現状維持」と評価された 河川工作物の事例 (2)



下流に堆積した巨石により、自然の滝が多く形成されており、遡上が困難。

改良工法の検討

➤ 改良工法の検討におけるポイント

1. サケ科魚類の移動確保
2. 防災機能の維持
3. 改良にかかる工期の短縮
4. 施工後の維持管理のし易さ
5. 施工による漁場への影響の回避
6. 希少動物等周辺生態系への影響の回避

治山ダムの改良 (イワウベツ川支流赤イ川)

施工前



施工後



導水管の改良 (イワウベツ川支流赤イ川)

施工前



施工後



治山ダムの改良 (イワウベツ川支流ピリカベツ川)

施工前



施工後



改良工法(ルシャ川)

施工前



施工後



右岸側切り欠き

中央部切り下げ

左岸側切り欠き

落差工の改良 (羅臼川)

施工前



施工後



河川工作物改良の進捗状況

- 改良された河川工作物は合計で11基
(ルシャ川2基、イワウベツ川5基、サシルイ川2基、チエンベツ2基)
- 登録前に既に改良の計画のあった羅臼川の18基(落差工)については、2007年度に改良が完了

モニタリング

✓目的

河川工作物の改良後、サケ科魚類の遡上や産卵環境が改善されたかについて評価する

✓調査項目

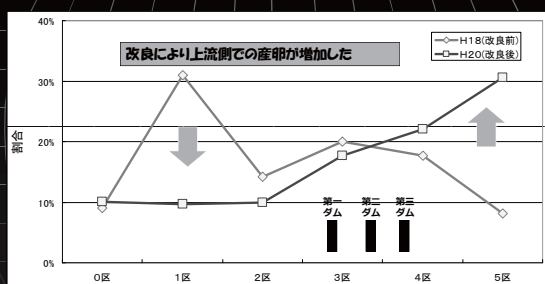
- サケ科魚類の遡上匹数
- サケ科魚類の産卵床数
- 河川工作物周辺の縦横断
- 礫の大きさと割合
- 河川の流速と流量
- 定点写真撮影

モニタリングの様子 (ルシャ川)



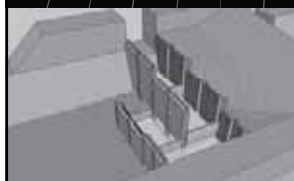
改良された治山ダムを遡上するカラフトマス

産卵状況の変化 (ルシャ川・カラフトマス)



サシルイ川での調査結果概要

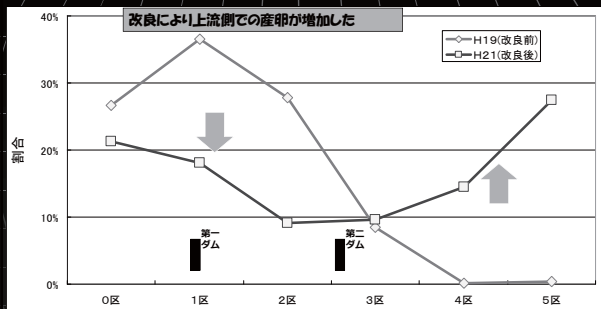
平成19年度に改良



No.1 床固工
魚道の改良



産卵状況の変化 (サシルイ川・カラフトマス)



成果と課題

1. 河川工作物の改良により、上流へのサケの遡上量は大幅に増加し、また、産卵・生息環境はより上流まで拡大した。
2. 海洋由来の栄養塩類は、陸上の動物・植物によって利用されており、川を通じた山と海の栄養塩の循環は、部分的に回復しつつある。
3. 今後は、モニタリング調査を実施し、仮に十分な改良効果が見られない場合、再び改良することも検討する。
4. 13基+18基以外のダムについては、個別対応(順応的管理)には限界がある。知床の将来像をどのように地域が描くのかを議論する必要がある。保全を優先したシナリオを描くのか、利用を優先するのか等の議論が必要である。

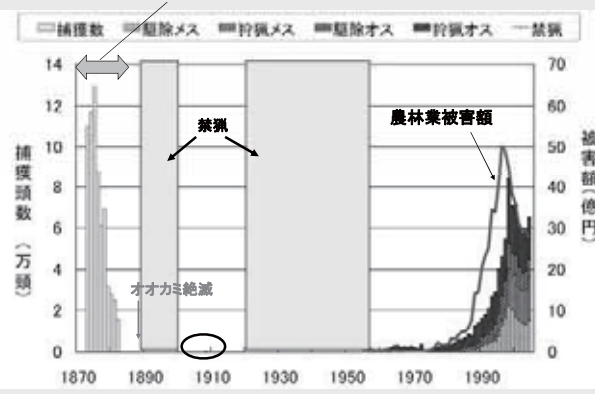
知床のシカの急増が及ぼす 植生への影響と管理

石川幸男（専修大北海道
短大）

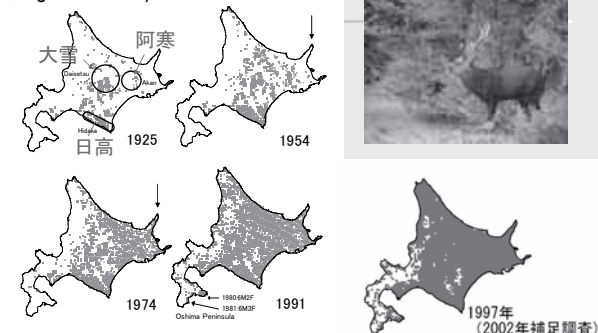
梶 光一(農工大 座長)

松田裕之(横浜国大)

商業的捕獲

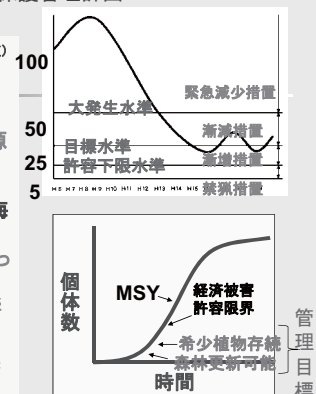


DNAハプロタイプで3区分
(Nagata et al. 1998)



■ **エゾシカ保護管理計画**（北海道）
農林業被害の軽減
絶滅を回避しながら、安定的な生息水準を確保
人間活動との軋轢緩和、資源利用

- 知床半島シカ管理計画(北海道シカ管理計画の地域版)
エゾシカの高密度状態によって発生する世界自然遺産地域の生態系への過度な影響を軽減すること
生物多様性と健全な生態系の保全



核心地域では、原則として人手を加えずに自然の推移に委ねることを基本とし...

・基本方針:遺産登録地では健全な生態系の保全＝回復機能のある動的な生態系を保全する

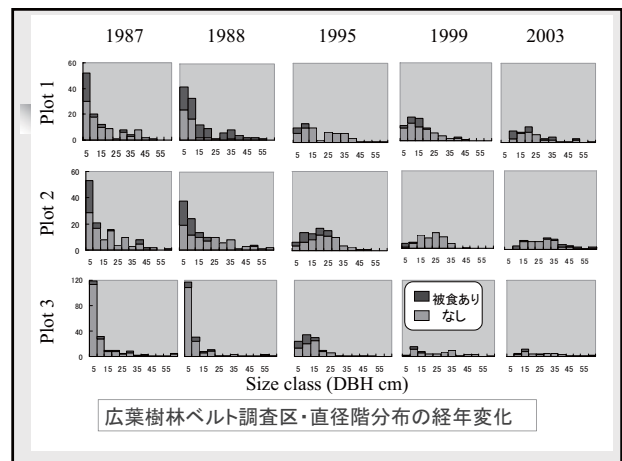
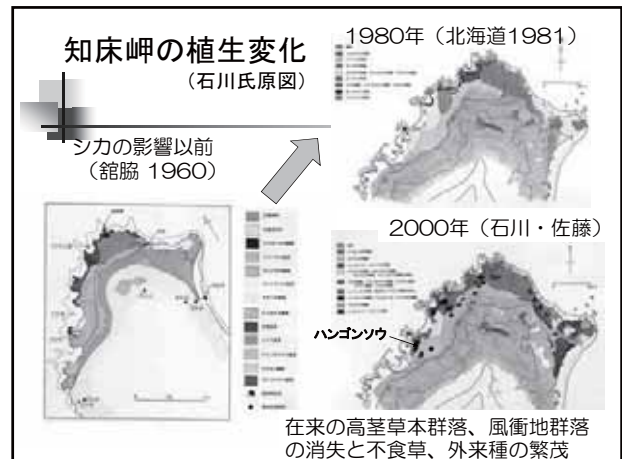
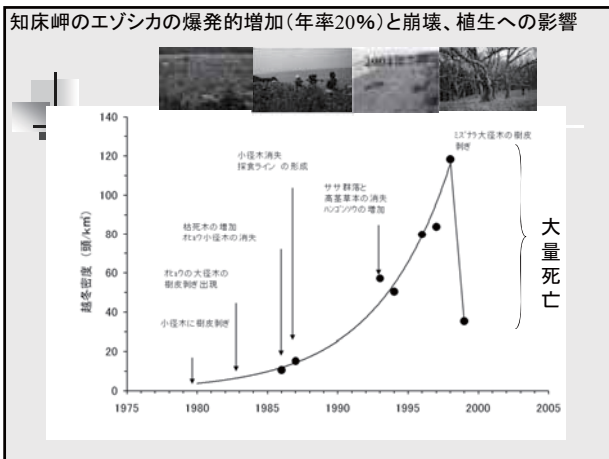
・主要な問題はシカ個体群を放置した場合の自然植生への影響

- 最低確認頭数3,177頭 見落としを考慮すると最低1万頭が牛息

- シカは標高300m以下に集中し、それを超える地域の発見頭数は全体の0.6%

- シカの越冬地分布は非連続的。
- 越冬期のシカは斜里側に偏って分布(羅臼側の2.3倍)





高標高域の状況(石川氏原図)



シレットコスミレが2年前から採食される



(石川氏原図)



(石川氏原図)



知床半島における採食圧の実態 (2008年版)
(石川氏原図) 高山帯ヘシカが侵入, 低標高で激害

植生帯 標高域		群 落 タイ プ					
		森林群落	湿原	草原	風衝地	岩礫地	海浜
高山	1100以上	ハイマツ群落 ミヤマハシノキ林	二つ池 知床沼	雪田	シレット コスミレ		
亜高山	700~1100	ダケカンバ林 常緑針葉樹林 ミヤマハシノキ林	羅臼湖				
山地	0~700	針広混交林 (常緑針葉樹林) (ダケカンバ林)		羅臼側 カムイ ワッカ	斜里側		
海岸		越冬地					

採食圧 ■: 強い □: あり ▨: なし、ごく軽微



解決すべき問題に関する共通認識

- 知床半島ではエゾシカの高密度状態の長期化により、特に越冬地（標高300m以下）を中心とした植生への強度の影響が進行中であり、生物多様性の低下が懸念される。標高300m以上および高山帯でのシカの影響は少ない。⇒最近、高山帯に侵入（シレットコスミレ被害）
- 知床岬では30年以上前までエゾシカは絶滅状態
- 知床岬では、少なくとも過去300年間にはみられなかったような植生への強い影響が発生している。

知床岬の植生影響についての論点

- I：自然に放置した場合には、過去にはみられなかったような、シカによる植生への不可逆的な悪影響が避けられず、早急な対応が必要である。
- II：現在見られている植生への影響は過去にも生じたことがあり、生態系過程に含まれることから、注意深くモニタリングしていく必要がある。

現時点で、どちらが正しいかは不明だが、予防原則の立場から暫定的にIを採用する。調査を行いながらIIの立場を検討していく

特定管理地域に指定し、2007年度 知床岬で密度操作実験開始。3年間で雌成獣450頭捕獲を目指す

地域区分(ゾーニング)による管理



特別管理地域でのシカの密度操作実験開始



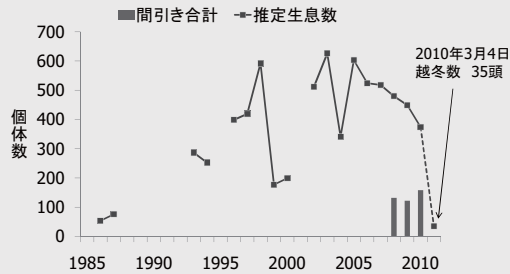
知床岬エゾシカ密度操作実験

年度	成メス	幼メス	成オス	幼オス	合計
2007/08	89	10	18	15	132
2008/09	76	7	26	13	122
2009/10	86	9	47	12	154

捕獲目標：エゾシカの採食圧を軽減するため、第一段階では数年で越冬個体数を半減させる。そのため、成獣メスを1年目には150頭、2-3年目には120頭以上捕獲する

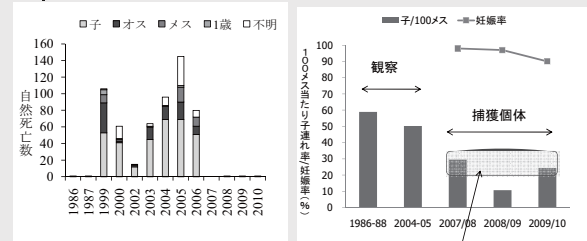
知床岬のエゾシカの越冬数と間引き数

間引き数は目標に達成しなかったが、追い散らしにより越冬数が激減



知床岬における自然死亡数、子連れ率

2007年以降、自然死亡個体が見当たらず、子連れ率が低い(妊娠率は高い)

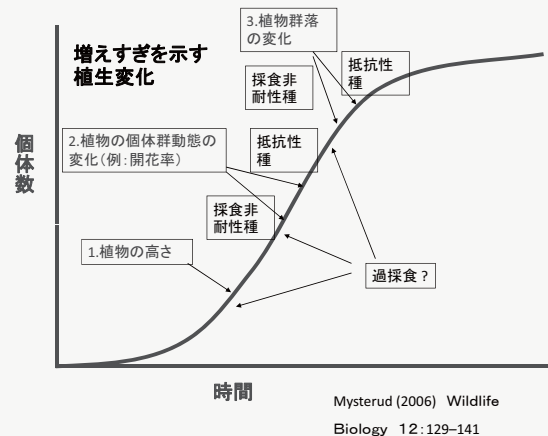


(知床財団 資料から作成)

幌別・岩尾別
の子連れ率

知床世界自然遺産地域の保全状況に関するユネスコ/IUCN調査報告書(2008年2月)

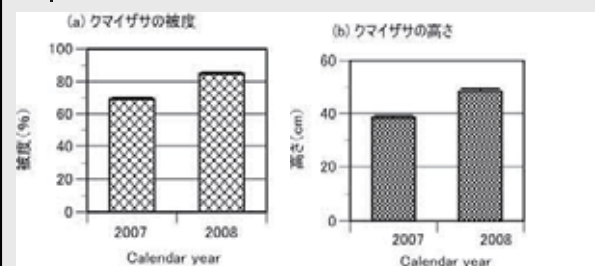
- 勧告10 遺産地域内の自然植生に対するエゾシカによる食害が、許容可能なものか許容できないものかの限界点を明らかにすることが出来るような明確な指標を開発すべきである。
- 勧告11 知床半島エゾシカ管理計画と関連する実行計画の実施を継続すべきであるが、抑制措置が、遺産地域のエゾシカの個体群、生物多様性、生態系に及ぼす影響を注意深く観察すべきである。



シカと植生の相互作用 梶・宮木・宇野編著(2006)を改変

相対密度	生息密度	植生への影響	シカ個体群動態への影響
低密度	<14頭/km ²	ニレ風大径木の樹皮剥ぎ発生。	繁殖率と加入率は最大。
低・中密度	14-26頭/km ²	樹皮剥ぎの増加、枝葉の利用可能量の減少。	増加率、繁殖力は低下しない。
中・高密度	27-40頭/km ²	高茎草本の消失。ササ群落の部分的衰退。	1歳雌の妊娠率の低下、初産年齢の上昇が生じる
高密度	≥41頭/km ²	ササ群落の消失。採食ラインの形成と更新阻害。樹皮剥ぎの拡大と不嗜好植物の侵入。	体の小型化。繁殖力の低下と死亡率の増加。厳しい冬に大量死亡が生じる

シカの密度操作前後のササの被度と高さの比較



ナガハグサ・オオスズメノカタビラ群落：金属ケージ



P1: 2007年10月11日 (8月11日設置)



P1: 2008年10月3日 (8月14日設置)

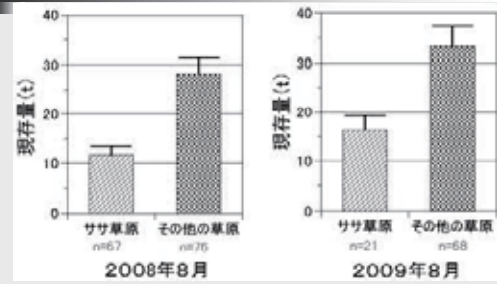


P4: 2007年10月11日 (8月11日設置)



P4: 2008年10月3日 (8月14日設置)

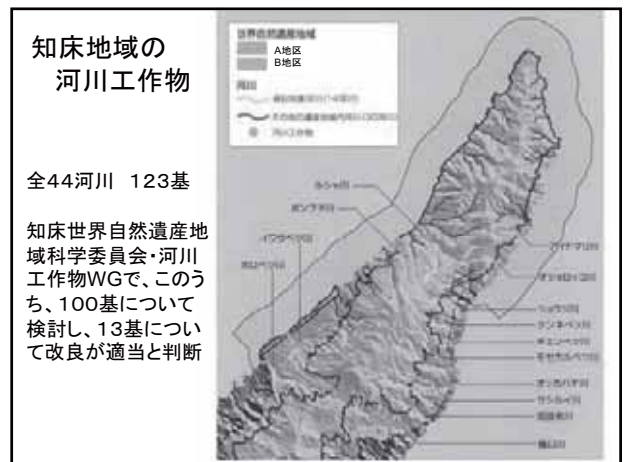
知床峠台地草原におけるイネ科小型草本の現存量。誤差線はSEを示す。



宮木原図

知床峠草原の植生指標について (宮木案)

目標	対象種	モニタリング		経過年	対策
		指標	シカ密度		
イネ科草本の増加	ナガハグサ・オオスズメノカタビラ等	現存量	(高)	(短)	個体数管理
アメリカオニアザミの衰退	アメリカオニアザミ	個体数 繁殖個体数	↑	↑	個体数管理
ササの増加	クマイザサ	高さ 本数	↑	↑	個体数管理
不嗜好性大型草本の衰退	ハンゴンソウ・トウゲブキ・エゾオグルマ	本数 高さ	↓	↓	個体数管理
大型草本の復活	カラフトニンジン、エゾノシシウド等	個体数 繁殖個体数			個体数管理
希少植物の復活	ガンゴウラン・シャジクウ・シコタン・モギ・シレットコリカブト等	個体数 繁殖個体数 設置面積	(低)	(長)	新たな種の数増?





知床世界自然遺産地域 多利用型統合的・海域管理計画

□ IUCNの要請

海域の保護レベルの強化

□ 対応

○同海域及びその周辺海域における持続的な水産資源利用による安定的な漁業の営みと海洋生物や海洋生態系の保全の両立を目標とする多利用型統合的・海域管理計画を策定。

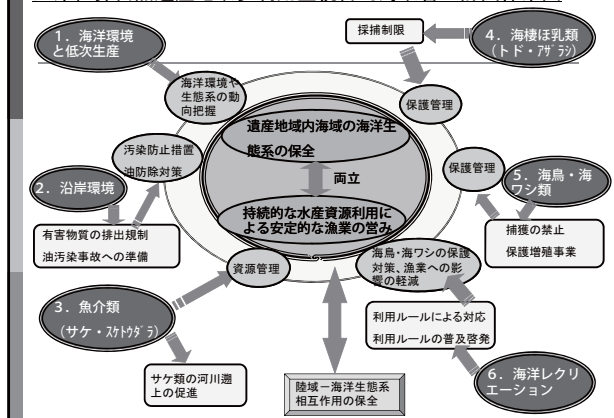
○海域の区域を沖合3kmまでに拡大



海域こそ世界自然遺産の価値の源



知床世界自然遺産地域多利用型統合的・海域管理計画体系図



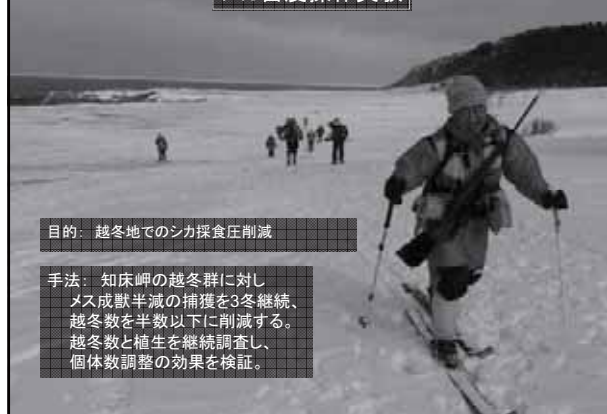
2008年 世界遺産センター、IUCN 現地調査



エゾシカによる食害対策



シカ密度操作実験



仕切り柵の併用による捕獲の検討



年次報告書の作成(2009年版～)

作成の目的

- 知床世界自然遺産地域内外における各種開発行為、事業、調査等の記録を作成
- 知床世界自然遺産地域管理計画に基づく取組の実施状況の点検(毎年)
- 知床世界自然遺産の保全管理の取組のPR

資料8



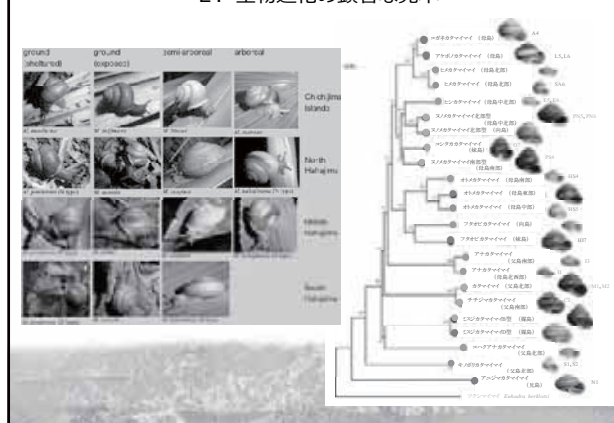
世界遺産としての顕著で普遍的な価値

1. 海洋性島弧の進化過程の見本
2. 生物進化の顕著な見本
3. 北西太平洋における海洋島の希少種の生息地



プレート形成初期に深海で作られる無人岩

2. 生物進化の顕著な見本



3. 北西太平洋における海洋島の希少種の生息地



小笠原の生態系を脅かす外来種 価値を守るために実行されてきた外来種管理



ヤギ

外来生物の根絶

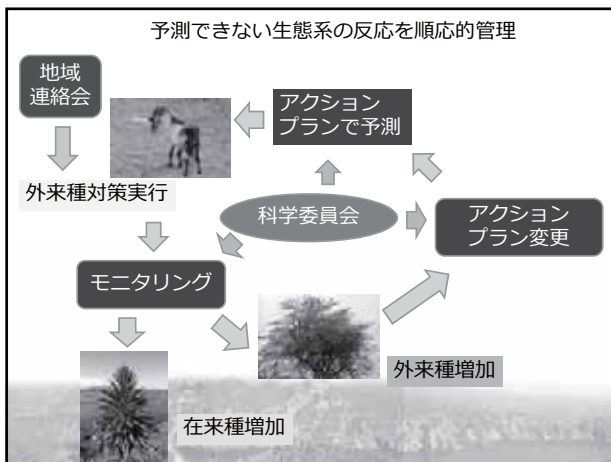
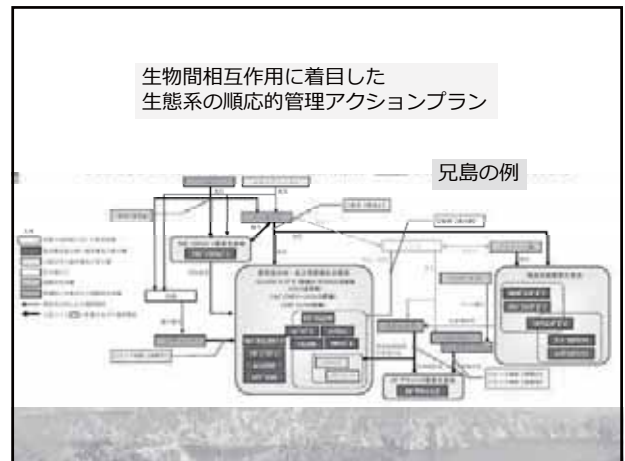
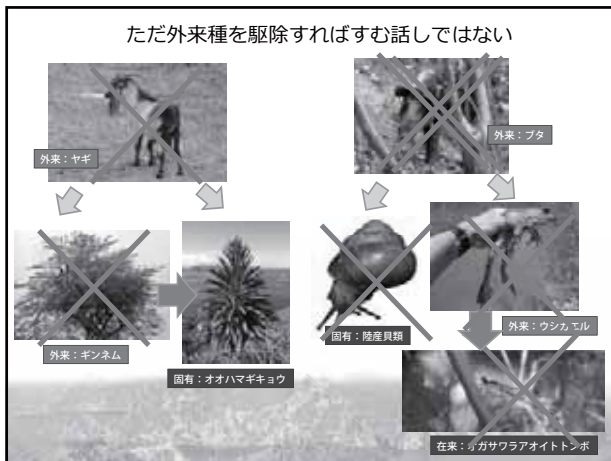
智島	2003
媒島	1999
嫁島	2001



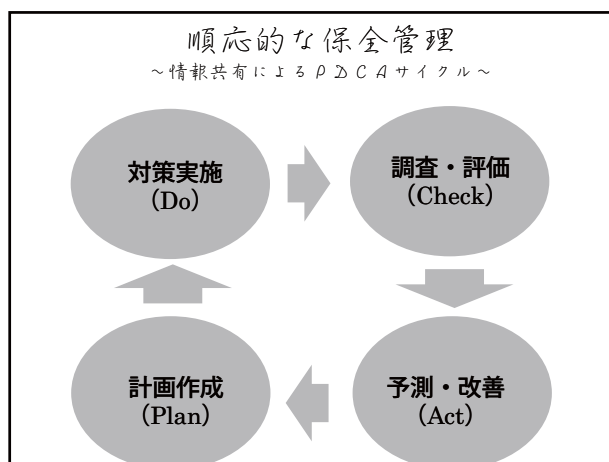
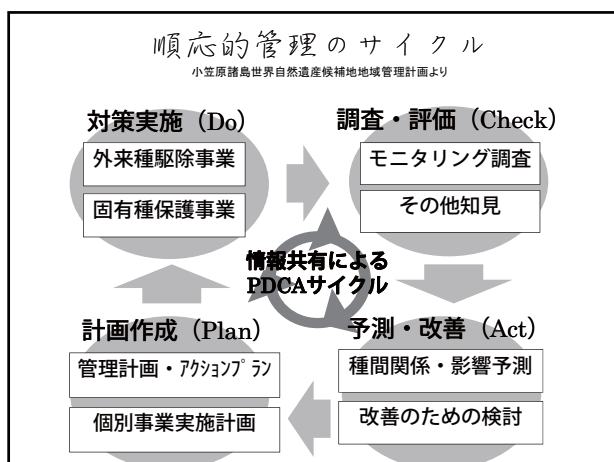
弟島	少数残存
兄島	2008
西島	2002
東島	1971
父島	生息
南島	1971

母島	1945頃
平島	1975頃

ヤギ (父島以外)
ブタ (弟島)
ウシガエル (弟島)
クマネズミ (西島
東島・兄島・弟島)
アカギ (弟島)



資料9





ヤクノヒナホシ



屋久島の生態系の異変



ヤクシカ

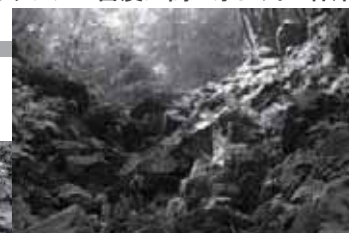
ヤクシカの増加により多くの希少植物に絶滅の危機が迫っている

固有植物: 47種・2亜種・30変種
(Yahara et al. 1987)

コモチヌワラビは、絶滅した



ヤクシカの密度が高い永田川の林床

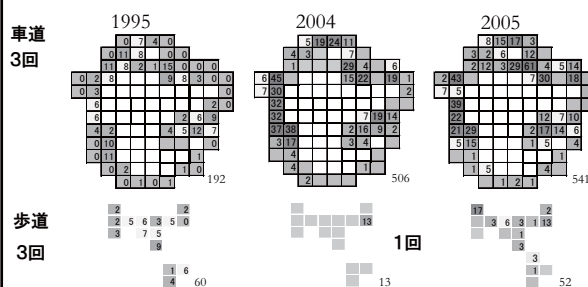


ヤクシカの密度が低い鈴川の林床

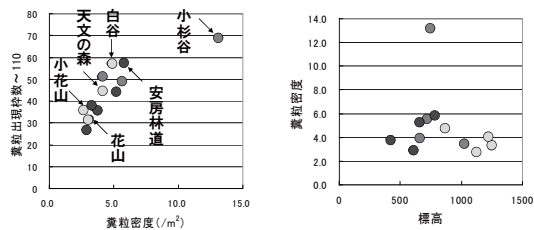
2003年以来提出された疑問

- ヤクシカは本当に増えているのか？
- 増えているのは人間がかく乱した場所だけで、原生林では餌不足のために減っているのではないかな？
- 林床植物が減ったのは森林が成長し、林が暗くなったためではないかな？
- ヤクシカと長い間共存してきた屋久島の植物がヤクシカのせいで減ぶことはないのではないかな？
- いずれ自然のバランスが回復するのではないかな？

ヤクシカ目撃数の変化

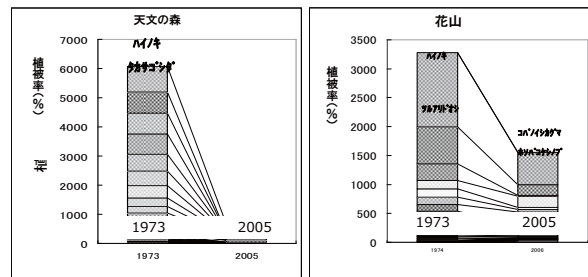


原生林内でもシカ密度が高い



原生林内のシカは警戒心が強いいため比較的目撃しにくい

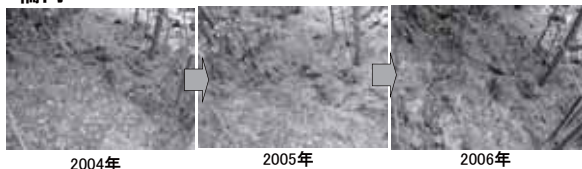
植被率変化



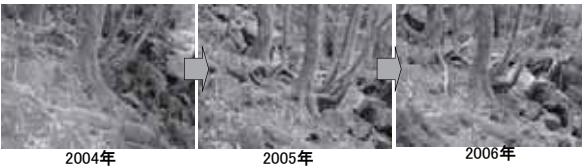
植被率の大幅な減少(とくに優占種)

柵内

小杉谷1



柵外



小杉谷1 柵内 ホウライイヌワラビ 絶滅危惧ⅠB類



(最大葉身長)	2004年	2005年	2006年	2007年
	7.0cm	13.3cm	25.8cm	34.0cm

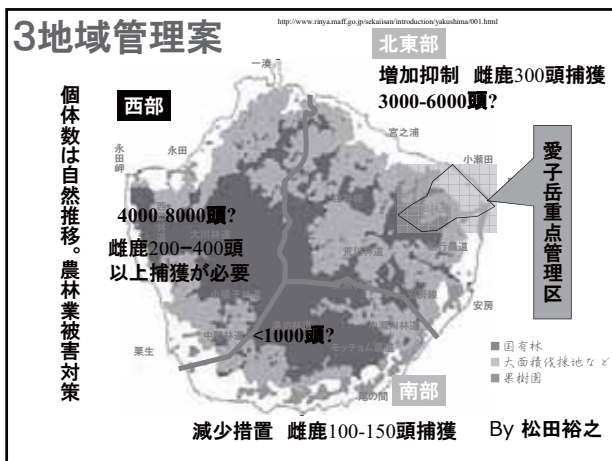
小杉谷1 柵外 ホウライイヌワラビ 絶滅危惧ⅠB類



2004年	2005年	2006年	2007年
最大葉身長 5.4cm	7.2cm	7.1cm	3.4cm

疑問への回答

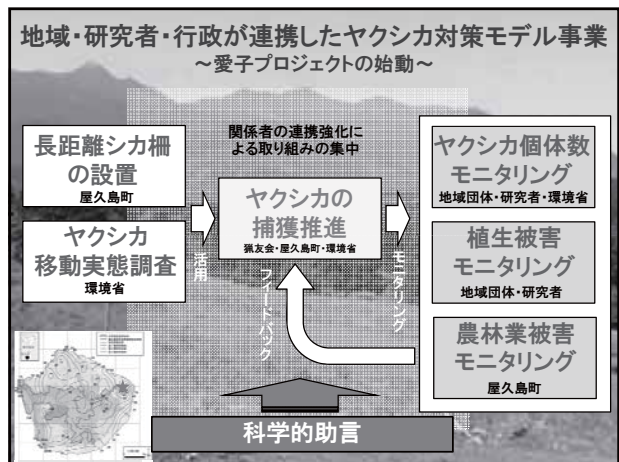
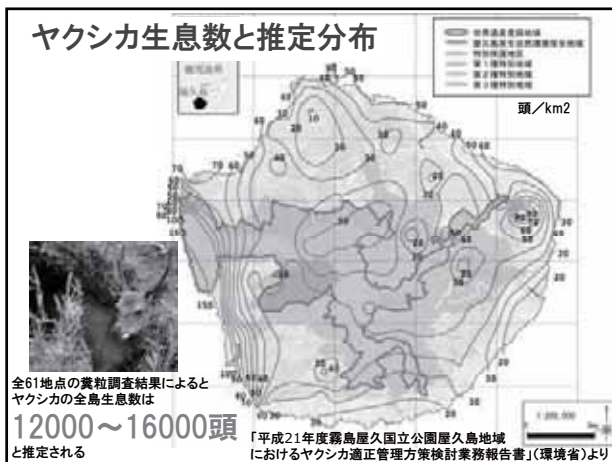
- ヤクシカは本当に増えているのか？
 - 西部では約10倍増。南部では増えていない。
- 原生林では餌不足のために減っているのではない？
 - 原生林内でも増えている。
- 林床植物が減ったのは林が暗くなったためではない？
 - 暗い場所でも柵で囲えば林床植生が回復する。
- 屋久島の植物がヤクシカのせいで減ぶことはない？
 - コモチイヌワラビは減び、ヤクシマタニヌワラビも絶滅寸前。
- いずれ自然のバランスが回復するのではない？
 - 林道が存在する以上、林道がなかった時代のバランスは戻らない。
 - 日本人は氷河時代(朝鮮半島と九州がつながった時代)より前に日本に住み着き、シカを採り続けてきた。



屋久島世界自然遺産地域科学委員会の設置

- 屋久島においては、利用者の増加による影響、ヤクシカによる植生被害、関係機関や研究者等がそれぞれ実施している自然環境に関する調査研究・モニタリングの調整などが課題
- 平成24年の世界遺産委員会では、屋久島を含む我が国の世界遺産の保全状況について定期報告が行われ、世界遺産の保全状況と価値の再確認が行われる予定
- そのため平成21年6月に屋久島世界遺産地域科学委員会を設置し、順応的な保全管理体制を構築

屋久島世界自然遺産地域科学委員会	
設置年月	平成21年6月
目的	科学的知見を踏まえた適切な保全管理を実現するため
委員	矢原徹一委員長(九州大学大学院理学研究院教授)をはじめ14名の専門家
設置者	九州地方環境事務所、九州森林管理局、鹿児島県、鹿児島県教育委員会及び屋久島町
事務局	九州地方環境事務所及び九州森林管理局
ワーキンググループ	ヤクシカの適正管理に関するワーキンググループを今年夏に設置予定

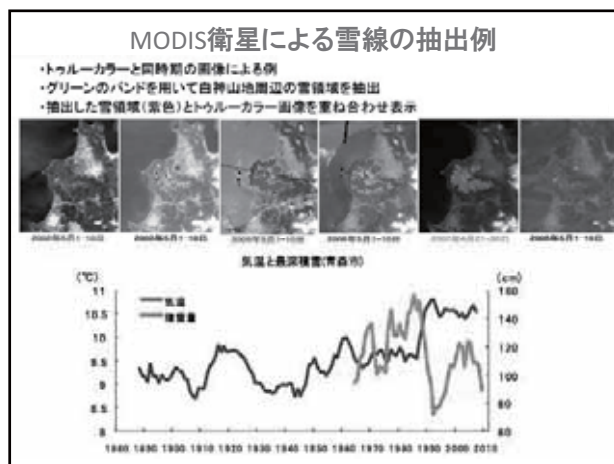
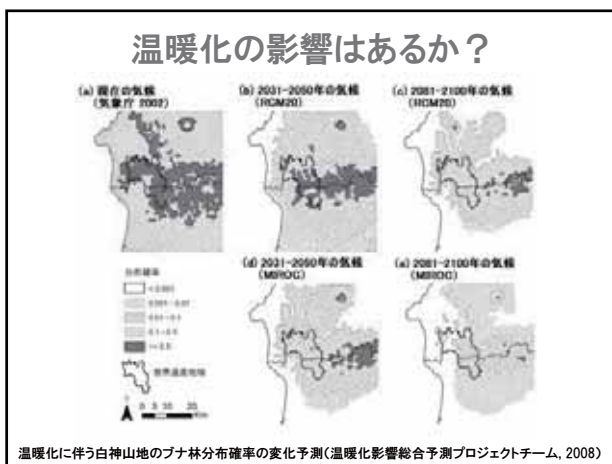


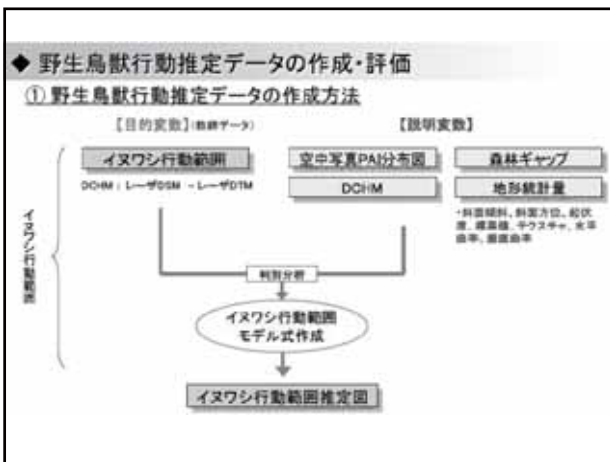
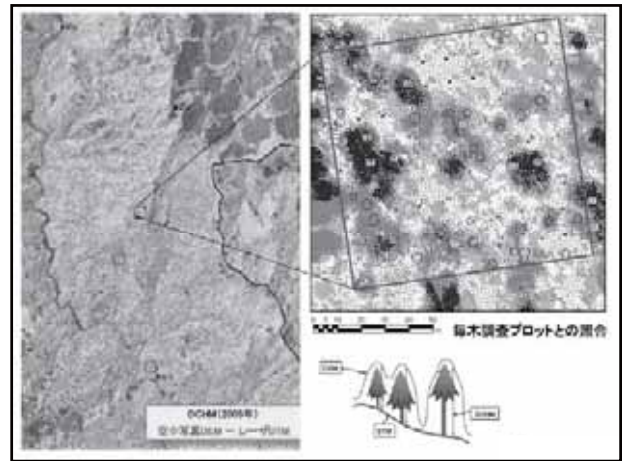


小岳から白神岳を望む



クマガラの森





持続的な利用と地域振興



知床五湖の適正利用の取組

○ヒグマの出没

・不特定多数の利用者との不用意な遭遇の回避 → 歩道の閉鎖 → 利用機会の減少

・食べ歩き、餌付け等への懸念

○利用集中による植生の荒廃

○静寂な利用環境の喪失



キャッチフレーズ:

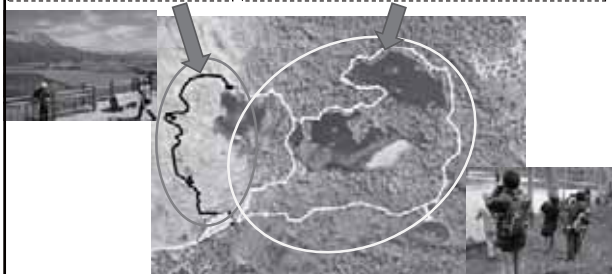
野生を育む、知床五湖。共生へ、新しい ふたつの歩き方。

高架式木道

電気柵で守られた高架式木道を整備し、不特定多数の利用者の安全で安定した利用の場を提供

地上歩道(利用調整地区導入)

不特定多数の利用者が利用することによる植生の荒廃やヒグマとの不適切な遭遇を防止し、静寂な雰囲気の中で原生的自然環境の体験の場を提供。



持続的な利用と地域振興

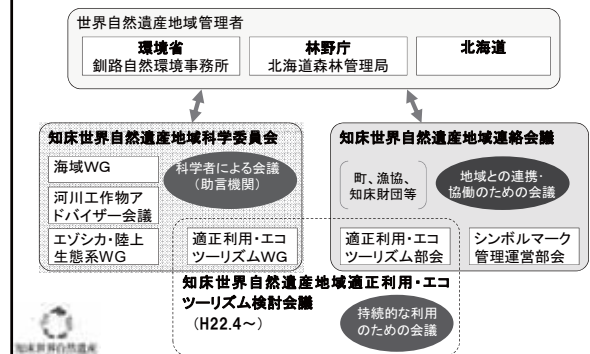
世界遺産委員会決議 32COM7B.16Corr 4.h)

- 遺産地域に関する統合的なエコツーリズム戦略を策定し、その戦略と知床内の観光・経済的開発の地域戦略との間に密接な連携・統合を確保すること

知床世界自然遺産地域適正利用・エコツーリズム検討会議の発足(平成22年4月～)

科学委員会の適正利用・エコツーリズムWGと地域連絡会議の適正利用・エコツーリズム部会を合同開催し、専門家、地域住民、行政機関が対等な立場で議論。

管理と検討の体制



資料13

